



シネマ気球

第31号 200円

シネマ気球©
編集兼発行人 関田孝正
〒270-0107
千葉県流山市西渡井 339-2
TEL 04 (7153) 1533
FAX 04 (7156) 7122

127時間

生きる希望を与えてくれる

「スラムドッグ\$ミリオネア」の監督ダニー・ボイルが、実話をもとにして作った映画「127時間」をみた。

週末、仕事を終えた主人公のアロンは、自宅で山登りの道具をバッグにつめ、車で大自然のブルー・ジョン・キャニオンへ向かう。テンポのよい音楽と、カット割に観客は心地よく物語の世界に引き込まれていく。

仮眠をとったアロンは、マウンテン・バイクでさらに奥地へ、広大な渓谷を疾走する。

歩き始めたアロンは、道に迷った女性2人組と会い、ガイドとして渓谷裂け目の地底湖に案内する。垂直の渓谷を滑り落ち、ブルーの地底湖に飛び込むシーンは、スリリングでとても神秘的。

女性二人とパーティーでの再会を決め、アロンは一人で山歩きを始めた。

ここから、彼の孤独な試練が始まる。

渓谷の裂け目を慎重に下っていた瞬間、岩とともに滑落。彼は右手を挟まれてしまった。地面から数十センチのところで、力いっ

ばい引いたり岩を押したりするが、びくともしない。

彼は、落ち着き、冷静に所持品を岩の上に並べる。万能ナイフ、ロープ、水筒、カメラ、ビデオ。限られた動きの中で、ロープを別の岩の突起に巻きつけ、金具を利用して腕を挟んでいる岩を動かそうとするが、ロープが伸びるだけで無駄なことを悟る。

大きな声で、亀裂の上空に向かって助けを求めるが、それこそ、むなしく体力を消耗してしまう。彼は自分の置かれた状況をビデオカメラに残す。時間を計り、残っている水筒の水を少しずつ飲み、生きる希望をつなぐ。

水分は小便さえも、無駄にしない。生きる執念、あきらめない心の強さが、力むことなく淡々と描かれている。原作者はドキュメンタリー作品にしたい希望があったというが、監督はドラマとして、アロンの身動きできない極限状態を描くことにこだわった。

ビデオに語りかけたり、巻き戻すシーン、劇中挿入されている幻想シーンが、一人芝居が展開する映画に効果と緊迫感をだし、観客の緊張を持続させる。実在のアロンに似た主演のジェームズ・フランコがいい。生きる希望を見失ったときにお薦めの一本かも。

(絵と文・山下雄平)

N雄とN子のシネマ対談

『SUPER 8 / スーパーエイト』

(監督= J・J・エイブラムス)

スピルバーグの後は
俺に任せろ！

なぜ空を見上げるのか？

N子「少年たちがでてくるので『スタンド・バイ・ミー』に似てると思ったけど、『E.T.』とか『未知との遭遇』とかにもつながる作品だったね。」

N雄「スピルバーグの映画って言っても、おかしくない。」

N子「エイブラムスって、スピルバーグの映画を見て大人になったらしいから、影響は大きいよ。」

N雄「普通は自分らしさを出そう出そうとするんだが、彼は違ってるな。」

N子「むしろ、スピルバーグの後は俺に任せろ！って、感じがしたよ。」

N雄「後を継ぐってことだな。だから、ラスト近くで大人も子供も空を見上げるんだ。」

N子「そう言えば、『E.T.』でも『未知との遭遇』でも、みんな空を見上げてた。」

N雄「あれには願いつていうか、祈りつていうか、——そういうものがこもってるんだろ？」

N子「8ミリでゾンビ映画を作る6人のグループが主人公つても、当時の時代をよく表しているよね。」

N雄「今じゃ有名になってるハリウッドの監督たちも、少年時代に8ミリカメラを回して映画を作ってたっていうから。」

N子「主人公は母親を亡くしたジョー(ジョエル・コートニー)。」

N雄「彼はメイクや特殊効果が好きな少年。保安官の父親はいつも家にいない。」

N子「小さな街だから、なにかあると保安官がすぐ引つ張り出されてしまうからね。」

N雄「もう母親もいないし、支えてくれる人がいないんだから、つらいとこだよ。」

N子「ひとりぼっちなんですよ。だから仲間と映画を作るんだよ。」

N雄「のろまなマーティン(ガブリエル・パッソ)とか爆破装置の専門家ケアリー(ライアン・リー)とか、夢見がちな監督のチャールズ(ライリー・グリフィス)とかみんな個性的。」

N子「監督もケアリーも鮮やかな印象を残すね。笑わせるのがチャールズでジョーがアリス(エル・ファニング)と仲良くなつたのを嫉妬するところ。」

N雄「両想いだからむかつくとは、一番の決め台詞。」

N子「そんな彼らが撮影中に貨物列車の脱線事故に遭遇、その中には極秘のエイリアンが乗っていたつてのが、話の発端になっているね。」

N雄「8ミリ映画を撮ってる時にアリスが場違いな熱演をするシーンが面白い。」

N子「みんな、彼女の芝居に呆気にとられてたね。」

N雄「事故のシーンがリアルで、描写が細かい。」

N子「子供たちが巻き込まれる様子がスリリングに描かれるが、凄い迫力だったね。」

N雄「ひやひやしたよ、車両が回転しながら飛んでくるし、燃料が爆破するし目が離せなかった。」

N子「そのエイリアンをあまり見せないのが成功してるよね。チラッとしか出さない。」

N雄「電線修理工が襲われるところや、アリスが連れていかれるところ、スーパーの店員が襲われるところも全体像は映さない。」

N子「バスで少年たちが襲われるところも、どこから現れるかわからないのでこわかったね。」

孤独な少年の成長描く

N雄「エイブラムスの演出力は、相当なものだよ。」



『SUPER 8 / スーパーエイト』

N子「音の使い方がね、恐怖感をおおってるし、エイリアンが一瞬しか見えないから、なおさら恐ろしいよ。」

N雄「どうやらエイリアンは人間たちに囚われていたようで、いろいろな実験や拷問を受けたらしい。」

N子「エイリアンと接触した黒人の科学者が、彼を逃がそうとして列車に車をぶつけたんだって。」

N雄「ただ、自分の星に帰りたいだけなんだ、宇宙人は。傲慢な人類はそれを許さないわけだ。」

N子「これを見るとロズウェル事件が本当かもしれないって思えてくる。」

N雄「あの時のアメリカ軍の態度を見ると、記者会見を何度もや

ったり、UFOではなく気球だったとか、なんか隠してる感じだよ。」

N子「情報操作があつたのは確かだよ。」

N雄「捉えた宇宙人がある基地に運んだという説もあり、もはや伝説になってるな、その話は。」

N子「でも、『E.T.』みたいなやさしいエイリアンじゃなくて、なかなか恐ろしい奴だったね。」

N雄「そりゃあ、攻撃されれば反発はするよな。」

N子「主人公のジョーは、エリオットが大きくなったような感じがして、なつかしかったね。」

N雄「片親で、父親の仕事が忙しく相手になってくれない孤独な少年。設定は似てるが。」

N子「葬儀の時、表でずっと母親

のロケットを握りしめてたもの。」

N雄「そのロケットを最後には手放すが、少し時間がかかるのがいいよな。」

N子「あそこで、母親のことを、やつと、ふんぎることができたのよね。」

N雄「泣かせるシーンだったな。」

N子「またアリスをたすけるためにエイリアンと対決した彼が言うセリフが泣かせる。」

N雄「あれは自分にも言い聞かせたんだよ、きつと。」

N子「辛いのはわかる。でも、生きていける——。子供のせりふじゃないよ。」

N雄「作者たちのメッセージかもな。」

N子「エイブラムスは、登場人物

の描写が的確だよ。群像劇なんだけど、うまくまとめる。」

N雄「それと子供を使うのも上手だよ。それぞれのキャラがよく出てたもの。」

N子「小さなキューブから宇宙船ができたのがっていくのが見どころ。」

N雄「やつとエイリアンは故郷の星に帰ることができるってわけだよ。」

N子「完璧に近いラストシーンだったね。」

N雄「頼れる後輩ができたので、スピルバーグはまずひと安心というところだろう。」

*採点 N雄 (90点)

N子 (90点)

原発に反対する人々

「ミツバチの羽音と地球の回転」

(監督＝鎌仲ひとみ)

大震災前につくられた原発と戦う市民を描いたドキュメンタリー。祝島で暮らす若者一家。昆布を採ったり、枇杷を育てたりしてつましく生活をしている。島民は半農半漁で生計をたてている。山口

県田ノ浦に原発計画が持ち上がった27年。原発賛成・反対で町は二分されている。若者らは父親とともに反対運動の先頭に立つ。海を埋め立てるためのブイ設置工事に漁船に乗って反対する町民。「建設を引き伸ばすだけ引き伸ばす」——原発ができたら島は死ぬ、われわれにできることはそれだけだという反対派の叫び。島民の人口

はかつての5,000人から現在は500人に減少している。高齢化しているが、新しい命も生まれている。「反対運動などしてどうして周りに迷惑をかけるんだ」という原発推進派からの抗議には、島でくらしにくいという人間の気持が全然わかっていないと若者はくやしさをにじませる。カメラはスウェーデンまで行き

自然エネルギーで生活できる人々の姿を捉え、風力発電で作った電気を電力会社に売る青森の事業家らをも追う。原発がなくても生きていける、あつたら生きてはいけないという人々を追う。カメラは弱者の味方。原発推進、反対どちらが正しいかは、今回の大震災の福島原発の事故が証明した。

(せ)

「蟹工船」雑感

今市文明

卒論は「小林多喜二論」

私の学生時代。70年安保を前にしたこの頃は、いわゆる学生運動の増城にあつた。学生は好むと好まざるとに関わらず、大半が心情的には「左翼系」だったと言える。私も留年もいとわず、集会やデモに明け暮れる学生時代を送ったひとりである。

日本文学を専攻していた、そんな私がいよいよ卒業するに当たって卒論のテーマに選んだのが、ろくに文学の勉強もしていなかったのに、やはりいちばん心情的に合致していたためかプロレタリア文

学の「小林多喜二論」だった。とにかく、卒論提出締め切りまで1カ月余と迫った頃から猛烈に多喜二関連の資料や小説を読破し、約100枚の論文を1週間で書き上げたものだ。文字どおりやつつけ仕事ではあつたが、ゼミの教授から「きみの生きる姿勢がにじみ出ている。たいへんよろしい」と褒められたことを今も忘れない。いま読み返してみると、なんと稚拙で浅薄な論文を書いたものかと、われながら顔から火が出るほど恥ずかしい代物ではあるが……。

あれから40年ほどが過ぎて、2、3年前からにわかに「蟹工船ブーム」が起きた。言うまでもなく「蟹工船」は、多喜二の、というよりもプロレタリア文学の代表作である。あれほど短期間で熱になされるように書きなぐった卒論のこともすっかり記憶のかたに遠ざかっていった私の心に「なぜ今、多喜二なの？ 蟹工船なの？」という疑問が沸き起こったものだ。たしかに、非正規労働者だとか派遣社員だとかワーキング・プアだとかということばが頻繁に飛び交うようになった今の世の中、彼ら若者たちの置かれている現実、昭和初期の国策産業であつた蟹工

船で働く労働者たちの非人間的な現実と重なり合う。そこから、若者たちを中心にブームに火がついたと思われるのだが、多喜二を少しでも研究した私には、労働者の団結こそが社会を変え、戦争のない平和な社会が築けるんだというメッセージを彼が命をかけて伝えようとした「蟹工船」の真髄に対して現代の若者たちがどれだけ理解できるだろうかという大いなる疑問があつた。それでも、新潮文庫の復刻版「蟹工船」は178万部の大ベストセラーとなった。

多喜二が綿密な取材を経て「蟹工船」を書き上げたのは1929年3月のこと。多喜二25歳のときである。すぐに単行本が出版されたが、当然のこととしてそこには容赦なく墨で黒く塗りつぶされた伏字だらけ。それでも、当時としては記録的な3万5000部が売れたという。それが80年後にその50倍以上もの売れ行きになるとは、あの世で多喜二も腰を抜かさなばかりに驚いていることだろう。

短絡的で矮小化されたが……

そして、お決まりのコースとも言うべき映画化である。じつは「蟹工船」の映画化は2回目で、

1953年に山村聡監督・主演で一度映画化されている。私は未見ながら、戦後まもなくの作品であり、民主主義に日本が踏み出した頃の作品なので、おそらく原作に忠実であつたろうと推測される。ところが、その55年後に映画化された本作(SABU監督、松田龍平主演)は、原作に一応沿いながら描かれているものの、すべてに中途半端でメッセージ性も弱いものだった。

劣悪な労働環境の中、低賃金で奴隷のように北洋漁業の蟹工船で働かされる出稼ぎ最下層の若者たちと、それを暴力で管理している鬼監督(西島秀俊)という図式は原作と同じだが、結局、最後まで労働者対鬼監督という短絡的な描き方に矮小化してしまっている。

原作で多喜二が訴えたかったのは、天皇制軍国主義のもとで、いかに労働者が非人間的に扱われ搾取されているかを告発し、そこから抜け出すには団結して闘うしかないということである。

映画では、この伏線として、蟹工船から脱走した2人の労働者がソ連船に救助され、そこで自由で明るい現地労働者の姿を見て、また蟹工船に戻り、仲間の労働者た

ちに団結して鬼監督に待遇改善を要求しようと立ち上るという描き方がなされている。しかし、その脈絡があまりにも弱いため、全く説得力を持って観客の心に迫ってこない。

無理もない。現代の若者にとつて、「社会主義・共産主義」ユー・トピア」と言われても何のことやらさっぱりわからないであろう。

当時は、1917年のロシア革命で初めて社会主義国が生まれ、世界各国の労働者にはそれに倣おうという機運が高まっていた。もちろん多喜二も1922年に創立されたばかりの日本共産党へ入党しようと考えていた頃であり、ソ連への憧れが強かったのだろう。

しかし、現代の若者には、20年前のソ連崩壊により、ロシアとなつた彼の国を憧れるような人はまづいないだろう。むしろ、今なお社会主義・共産主義国家を頑なに堅持している北朝鮮の独裁による人民抑圧と貧困の実態、あるいは中国の貧富の格差、人権抑圧の実態を見ると、これらの国の労働者、人民こそが国家に対して団結すべきだろうと思いたくなる逆転現象とも言えるべき皮肉な時代となっている。したがって、映画での

このエピソードは、現代の観客には理解不能であり、無用のシーンだったと言わざるを得ない。

もうひとつ、原作の真髄とも言うべきシーンが極めてあいまいに描かれていることである。それは、労働者たちが立ち上がって鬼監督に要求を迫る際、蟹工船を護衛していた駆逐艦から海軍兵士が乗船してくる場面。原作では、軍隊は国民の味方だから、これどうまくいくと労働者全員が大喜びするものの、彼らはじつは敵であつて、リーダーたち何人かが拘束されてしまい、彼らの闘いが挫折するというふうに描かれている。

そして、当時の労働者の階級意識の未熟さを訴え、それをバネにして新たな闘いに立ち上がることを示唆して終わっている。

要するに、現場の鬼監督は単なる国家権力の手先であつて、本来の敵は天皇制国家とそれに結びついた帝国軍部、大企業であるという本質を労働者たちに見抜いてほしいと、多喜二はこの小説を書いたのだ。

しかし、現代はグローバルな資本主義が支配しており、天皇制も軍部もない社会である。したがって、そのような描き方をしても現

代の若者たちにはわからないと考え、この部分を労働者のひとりに「あ、帝国海軍が来た！」のひとことを言わせるだけで、いともあっさり終わらせている。そして、リーダー格の労働者（松田龍平）が鬼監督に撃たれて死ぬという形で、この場面を処理している。まさしく鬼監督対労働者たちという勧善懲惡的なストーリーにしてしまっているのである。

そして、リーダーの死を契機に、労働者たちが再度立ち上がるところで終わっているが、その最大のメッセージが「自分たちが変わらなければ何も変わらない」というもの。私には、いくら時代背景が違ふとはいえ、「蟹工船」のメッセージとしては、これはいかにもあいまいで頼りなく、弱々しいと思えて仕方ない。

が、ワーキング・プアに喘ぐ現代の若者たちには、とりあえずこのメッセージで十分なのかもしれない。どんなに最下層で過酷な現実にあつても、あきらめてはいけないということだけは伝わるからだ。

私が現代の蟹工船的労働者だといちばん思うのは、福島原発事故で命がけで処理・復旧に当たって

いる作業員たちではないか。彼らは東電の社員ではなく、下請け、孫請けの会社の労働者たちだという。なかには派遣社員もいるかもしれない。まさに国策で進められてきた原発事業で、彼らは東京電力という大企業の末端で身の危険におびえながら過酷な労働を強いられている。これこそが現代の「蟹工船」ではないかと思うのである。

小林多喜二は、この小説を書いた4年後の1933年（昭和8年）2月20日、特高警察に逮捕され、徹底的な拷問を受け、その日のうちに殺された。29歳の若さであつた。この頃を契機に、日本は中国戦線を拡大し、やがて太平洋戦争に突入、悲惨な敗戦を味わうこととなる。

戦後の日本を今日まで発展させてきた原動力は、紛れもなく日本国民であり労働者であつた。今また、国民、あるいは若い労働者の現実が危機にさらされようとしているとき、多喜二の「蟹工船」が甦ったことはある意味象徴的ではないか。内容はともかくとしても、若い日に多喜二に情熱を注いだ者としては、今回の映画化はやはりうれしいものではあつた。



「描き手からの蛇足」この時節に不謹慎だとのお叱り覚悟で、核兵器や放射能が出てくるヤツを集めてみました。とは言え僕のチョイス。多くは古き昔（50〜60年代）のB級・C級のSFやホラーの作品達です。何でもかんでも巨大化したり、変身したり、眠りから目覚めたり。力が夢をみていた頃の能天気な悪夢の数々。こんなハナシが生まれる時代は、もう2度と来ないのかなア。

怖いもの見たさもいいものだ

「冷たい熱帯魚」「アンチクライスト」

里中智子

小学生の頃、「サスペリア」が公開され「決して一人では見ないでください」というキャッチコピーで一大ブームとなった。テレビCMで流れたピアノ線が何かに絡まって動けない娘の苦悶の表情は未だに覚えている。それから当分の間は「サスペリア」が気になって仕方がなかったように思う。私の心の中で怖いけど見たい！という好奇心と、見たらきつと後悔するという不安が葛藤を繰り返してしまっているうちにとうとう見そびれてしまった。結局、テレビで放送された時に見ることができたのだが、お茶の間で見た「サスペリア」はあ

まり怖くなかった。むしろ残酷な描写の繰り返しとやかましい音楽しか印象に残らない作品だったと記憶している。余談だが、後に見た「サスペリア2」の方がおもしろかった。あれからずいぶん成長したけれども怖いもの見たさは今も健在だ。

まず、「冷たい熱帯魚」。愛作家連続殺人事件をベースにした実録もので、現代の空虚な家族像や父親像といったものに触れながら、全編に異様な熱気をはらんだ作品だった。監督も役者もやりたかったことは存分にやり切ったのかなと思えるくらい内容はともかくとして充実感に満たされた作品だった。

でんでん演じる村田の圧倒的な存在感の前では、村田夫妻に出会ったばかりに何が何だかわからないうちに家族の生命を脅され共犯者となっていく吹越満演じる社本はただただ従うしかないのだが、社本の家族はすでに崩壊していて今さら父親として夫として懊悩したところで娘も妻もとつくの昔に社本から心が離れているのが滑稽でもあり哀れでもある。村田や妻が嬉々として人をバラバラにする不気味さも、一仕事終えた後のコ

ーヒーもこの異常な作品世界の中ではなぜか笑えてしまえる恐ろしさ。最後に社本が父親として娘に遺した言葉に対する娘の痛烈な返答が、この作品を表しているように思えた。でんでんと吹越満はもちろん、黒沢あすか、神楽坂恵、梶原ひかりがしたたかでありながらもろい面もある女性たちを演じていてよかった。

もう1本は過激な描写とテーマが公開前から物議をかもしていた「アンチクライスト」。タイトルが示すとおり、キリスト教を信仰している人が見たら言語道断な内容なのだろうが、信者でもないし詳しくもないから衝撃度は低かった。ただかなり痛い！作品だった。妻

が邪悪な心にとらわれる過程が唐突な気もしたけれども、シャルロット・ゲンズブールが、息子を亡くした母の哀しみと女としての業を生々しく痛々しく熱演していた。

この作品の女性は、トリアーが描いてきた女性たちと少し違っているように思った。「奇跡の海」や「ダンサー・イン・ザ・ダーク」では、身近な人への愛を実現するため、周囲の人や世間からの不当な扱いに対してもただひたすら受け身であり自己を犠牲にしてもい

とわれない慈愛の存在であったものが、この作品の彼女は彼に対して暴力的な行動に打って出る。彼にしてみれば彼女にとって善かれと思っただけだが、結果的には自分へのあまりにむごい仕打ちとなつて返ってきたことは考えられないことであると同時に得味が知れない恐怖だったに違いない。

エピソードで顔のない無数の女たちが光を求めてひたすら丘を登り続けていく場面があったが、さまざまな権威のもと、自由を求め奔放であったがためにレッテルを貼られ虐げられてきた女性たちへの監督の思いが反映されているのだろうかと思ってしまった。

怖いもの見たさで見た2本は、残酷、過激といった言葉以上に人間というものについての作品であり、どちらも作り手の思いがこもった見応え十分なものだった。興味本位も捨てたものではないのだ。

◇

◇

◇

今年のベストワン！

『海炭市叙景』

小泉 敦

5話のオムニバス

今年観た映画の中で最高の一本
 といつていい作品である。監督は
 熊切和嘉。原作は佐藤泰志の同名
 の小説である。佐藤泰志は194
 9年函館に生まれた小説家で、中
 上健次や村上春樹と同世代の作家
 である。現在絶版もふくめてこれ
 までに6冊の単行本が世に出てい
 る。芥川賞候補に5回、三島賞候
 補に1回挙げられたが受賞は逸し
 た。

彼は1990年10月10日に41歳
 の若さで自殺した。わたしもこれ
 まで佐藤泰志の作品を読んでなか

ったし、じつはその存在さえよく
 知らなかったのだ。この映画を観
 るまでは。劇場には彼が『海炭市
 叙景』の筆を起す前に構想して
 いた資料などが展示されていて、
 それらを見ているうちに、これが
 志なかばで終わってしまったこと
 をとても残念に思った。

映画を観てからすぐ小学館文庫
 の『海炭市叙景』を買ってきて読
 んだ。『海炭市叙景』が集英社から
 単行本として出たとき解説を書い
 た福岡健二によれば、この小説は
 一気に書き下ろされたものではな
 く、集英社発行の文芸誌『すばる』
 に1988年から1990年にか
 けて6回断続的に発表されたもの
 であつたと書かれている。作者の
 構想では、発表したのは全体の半
 分にあたる「冬」と「春」の2章
 18篇ですぐあとに「夏」と「秋」
 の18篇が書かれる予定だったとい
 う。

映画は小説18篇のうちの5篇を
 選んで映画化しているが、この選
 択はまちがっていないかと思う。
 映画の基底をなしているのは小説
 でも最初におかれている『まだ若
 い廃墟』のエピソードである。若
 い兄妹の話で、兄を竹原ピストル、
 妹を谷原美月が演じたがこれが成

功した。兄は造船所の仕事をリス
 トラされ妹も無職のようだ。

長屋のような6畳一間くらいの
 アパートに住んでいる兄妹には、
 金はおろか食べ物にも事欠いてい
 るようにみえる。この町は炭鉱と
 造船によってこれまで支えられて
 きた。だが時代はエネルギーの転
 換や造船不況などで町は次第にと
 り残されていく。大晦日の夜年越
 し蕎麦を食べ終わると、兄が突然
 日の出を見に行こうと云いだす。
 部屋中の小銭をかき集めてロープ
 ウエイに乗るための運賃をどうに
 か捻出する。この町で唯一といつ

ていい観光場所、その夜景は見る
 に値すると世間では云われている。
 日の出を見るために大勢の人が
 その山に押し寄せている。山頂で
 兄はビールを一本買う。それを旨

そうに吞むと妹にもすすめる。す
 こし驚く妹。帰りのロープウェイ
 に乗る2人分の金はない。兄は妹
 に小銭を渡すと、一緒に自分も歩
 いて下りるといふ妹を無理やり乗
 せる。その後この兄妹は二度と顔
 を合わすことはない。妹は人気の
 なくなつた発着所の待合室で、笑
 顔で山から下りてくる兄を待ち続
 けている。兄は死んだのである。
 妹はまだそのことを知らない。

原作生かしたダークな感触

第二話にあたる『猫を抱いた婆
 さん』では、主人公の70歳になる
 トキを演じた中里あきの存在感が
 観るものを圧倒する。わたしはこ
 の役を演じている中里あきは、て
 つきり地方劇団かなにかで長年演
 技経験をしてきた人にちがいない
 と勝手に思い込んでいた。ところが
 映画季刊誌『映画芸術』に載つ
 た熊切監督のインタビューによる
 と、中里あきは函館の裏町でスカ
 ウトしたというので驚いた。この
 映画は2時間32分の長尺にもか
 わらず時間の長さをまったく感じ
 させない。物語を繋ぐため細部に
 多少の変更はあるが、ほぼ原作の
 イメージに忠実につくられていて
 大きな逸脱はない。

この映画でいちばん大事なことは
 原作全体を貫いているダークな
 感触、トーンというものだろう。
 熊切監督は今の時代に逆らうよう
 に、敢えてこの作品をフィルムで
 撮っている。劇場公開が前提だか
 ら16ミリで撮つたものを35ミリに
 ブローアップはしたが始めから16
 ミリで行こう考えていたという。
 現在ではデジタルで撮つたほうが
 手間もかからず費用の面でもずつ

と安上がりである。にもかかわらずフィルム質感にこだわった。

映画の基本が光と影によつて支えられてきた芸術と考えれば、ただ綺麗に写っていればいいという観光映画ならともかく、35ミリをわざとさけてスーパー16の適度に荒れた画面がこの映画にもっとも相応しいと考えたようである。それにこの方法の選択は小説の趣味とも見事にマッチしたともいえる。

昔はよく市民映画という言葉が耳にしたように思う。自分が知らないだけで今でも作られているのかもしれないが『海炭市叙景』はまぎれもなく函館の市民映画である。製作費の大半がこの映画の主旨に賛同した市民カンパによってまかなわれた。だがこの物語は、原作でもそうだが日本のどこにもある架空の町として設定されている。

誰が観ても、また読んでもこの作品から函館を重ねることは容易である。にもかかわらず架空の町海炭市として設定したということがこの作品に奥行きを感じさせる重要な通低音になっていると思う。

大手の企業やスポンサーがつかなかったことが逆にいい結果につながったとも考えられる。このよ

うな良質であるが「地味」な企画の映画に大手などはぜつたい乗って来ない気もするが、よしんば乗ったとしてもあれこれと口を差し挟み、結果とんでもない映画になつてしまったということはこれまでも多々あった。

壊れた家庭

第三話の『黒い森』と第四話の『裂けた爪』は登場人物が間接的にかかわっている。『黒い森』の主人公は小林薫演じるブラネタリウムに勤務している中年の男である。彼の家庭は崩壊しかかっている。高校生の息子がいるが彼は両親のことになんの関心も示さない。母親の南果歩はホステスが仕事で帰宅は朝帰りである。ときどき帰ってこない日もある。そんなとき小林薫はイライラが高じ街に出て妻の行方を捜したりするが所詮は虚しい行為である。彼の心を占めているのは、まだ子供が幼かった頃親子三人で近くの森に行ったときの楽しかった記憶である。そこに戻ることができたらと思ってもそれはもはや叶わないことだといふことを彼は知っている。

そして『裂けた爪』もまた完全に壊れてしまった家庭の話である。

家業であるガス屋を継いだ加瀬亮は、元同級生であつた女と再婚した。彼には前妻との間に小学生のひとり息子がいたが息子は継母に日々虐待されている。結婚はしたものの戸籍上夫婦というだけでふたりの仲は完全に壊れていた。この夫婦の未来への予感ほとんど回復される見込みはないように思われる。

プロパンガスの商売もあまりうまくはいっていない。そこで彼は副業に浄水器の販売などにもかかわるがこれとて業者に利用されているだけという印象である。父親からはそんなことに手を出すなとクギを刺されている。彼の周辺は一見八方ふさがりのように思える。ただ一人息子にだけはつよく愛情を持つていうようだ。ある日の夜仕事を終わって家に帰った彼の目の前に、妻から暴力を受けた息子がいた。それを知った彼は激怒し女房を半殺しの目にあわせる。

ただこの商店に勤めている数人の従業員の中に、おそらく父親の代から勤務していたと思われるやや年配の女性事務員がいて、彼女からの視線がこの壊れていく家庭と、二代目の置かれている立場を多少なりとも理解している人物と

して登場させている。この事務員はもちろん小説の中にも出てくるが、映像として印象づけられるとかなり大きい。映画では加瀬の息子がブラネタリウムに行つて小林薫と顔を合わせるといふシーンが小説とはちがう形で描かれている。

苦痛に満ちた生きる行為

最後のエピソードは『裸足』である。海炭市を走る路面電車の運転士を長いことしてきた西堀滋樹は運転席から偶然息子の三浦誠己を見つけてやや驚く。彼は東京で働いているはずであつた。帰つて来るにしてもそのことを父親に知らせもしない。ふたりは墓参りで偶然顔を合わせる。この父と子はほとんど会話らしいものもしないまま別れていく。だがお互い憎み合つていっているような関係ではない。

息子は仕事で一時的に海炭市にやつてきただけで、この街に愛着があつて戻ってきたのでないことはわかる。だが彼は生まれてから長いことこの街で暮らしていたのである。その事実は彼の人生にながしかの翳を宿している。『裸足』はその夜彼が呑みに入った盛り場のバーで起こったひと悶着に

起囚する話である。彼は確かにこの街で生まれ育ったが故郷を懐かしんでいないことだけは確かである。この距離のとりかたは、どこか根無し草のように思えてならない。

熊切監督は街を走る路面電車をうまく話の継穂として映像化している。これはまた小説とはちがった形で見応えがある。あるエピソードが次のエピソードにつながっていくというような、いわゆるリレー形式の映画ではない。原作でもそうだが、それぞれの話に登場する人物たちにはなんの関連性もない。にもかかわらず、いやだからこそというべきか、この人々に愛おしさみたいなものを感じてしまふのである。

海炭市は決して特別な場所ではない。そのことが重要である。かつて熊切監督も生まれ育った街帯広を後にして都会に出てきた多くの若者のひとりであろう。そして後に映画監督となった。この映画を観ていると、人間が生きていくということは、それだけでなんと苦痛に満ちたものであるかということをおぼろげに思われるが、このヒリヒリする痛みがわからないような人間には決してなりたくはないと思う。

福祉国家スウェーデンに潜む闇

『ミレニアム ドラゴン・タトゥーの女』

堀江広子

惹きつけるアクティブなヒロイン

スウェーデンといえば、男女同権、社会福祉の充実した国というイメージがある。税金は高い。でも、老後も安心に暮らせて、教育にふんだんに税金が使われるならそれもいいかな、などと思う。

日本はいつの間に社会主義国になったのだと感じているのは私だけか。大手銀行が破綻しそうになると税金注入、大企業が潰れそうとなれば銀行が債権放棄をし、さらに税金注入で救ってくれる。そのくせ零細企業の窮状には見て見ぬ振りで自己責任というのだから、

全く都合のいい資本主義だこと。

とまあ、私の住んでいる地方都市の年々衰退して行く町並みを見ていると、つい僻みと八つ当たり的心境で愚痴りたくなるのだ。

それはともかく、バラ色に見えるスウェーデンも結構底知れぬ問題を抱えているようだ。

映画の原作者はステイグ・ラーソンとパートナーのエヴァ・グリエルソン。

この小説は世界的に大ベストセラーとなった。『ミレニアム』シリーズは第五部までの構想があったというが、第一部の『ドラゴン・タトゥーの女』の出版を見ることもなくステイグ・ラーソンは五十歳の若さで急死した。映画の内容には理解しづらい部分があったが、小説の方は社会的、歴史的背景がさらに複雑に入り組んでいるのである。

映画化されたのは、第一部『ドラゴン・タトゥーの女』、第二部『火と戯れる女』、第三部『眠れる女と狂卓の騎士』で、『ドラゴン・タトゥーの女』の原題は『女を憎む男』になっている。男を憎む女じゃないのかと思ったが、第二部、第三部を観ていけば納得、この小説が女性への偏見、蔑視、暴力に

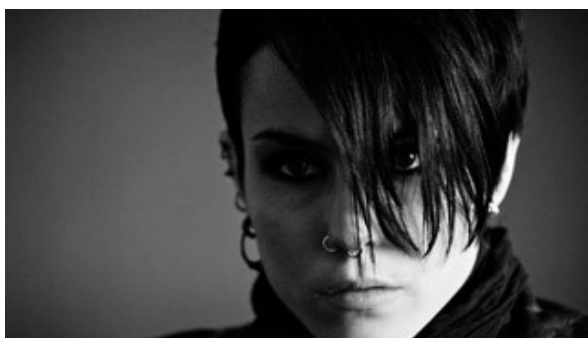
怒りを持つて書かれたものだということが分かる。

映画が成功したのは、ヒロインのキャラクターを極端にデフォルメしてアクティブに描いたことと、もうひとりの主人公である男性の決して屈しないジャーナリスト魂に共感できるからだろう。

パンクな若い女とメタボな中年男

リスベットは、ネットセキュリティのフリーの調査員。痩せぎすで、ベリーショートヘア、突き刺すような眼差し、背中に恐ろしいドラゴンのタトゥーを入れている。ドラゴン・タトゥーはリスベットの社会への怒りを表している。絶望ではなく、彼女は怒りを感じているのだと思う。彼女は泣き寝入りをしたり、諦めたりする女ではない。彼女を傷つけた社会とレイプした彼女の後見人である弁護士や陥れた大人たちを許さず、闘う事を決意している。その揺ぎない精神の象徴として背中にドラゴン・タトゥーを彫っているのだ。恐ろしく孤独な闘いである。

このキャラクターを見事に演じきった女優は、無名の舞台役者だったという。鼻に二つのピアス、時にパンクなファッションの近づ



『ミレニアム ドラゴン・タトゥーの女』

き難い雰囲気のリスベットだが、無表情なその瞳に映る、悲しい出生の秘密と少女時代から味わったであろう地獄を考えると、彼女に對して深い同情と愛しさを感じずにはいられなかった。もともと第一話ではリスベットのそうした過去は分からない。第二部、第三部で次第に明らかになっていく筋立てなのだ。

そのリスベットが後に唯一心を許せる男となるのが、雑誌「ミレニアム」の発行責任者ミカエル。演じた中年の俳優は、決してカッコイイ風貌とは言えない。この人

が主人公なのかってちよつと信じられずがっかりもしたが、段々味のあるイイ男に見えてくるから不思議である。最後は、ミカエル素敵!となったのだから。

雑誌「ミレニアム」の発行責任者ミカエルは、自身の命の危険にもひるむことなく悪徳実業家の不正を告発したのだが、権力を駆使した相手から逆に名誉毀損で訴えられる前に、ミカエルの勇気を見込んだある大富豪からのたつての依頼が持ち込まれた。何十年も昔に起きた大富豪の姪の失踪事件を追うことである。その過程で調査員のリスベットと情報交換をしあうこととなる。殆どの感情を自らシヤットアウトしているように見えるリスベットだが、それには悲しい事実が隠されていた。依頼された失踪事件はおぞましい連続女性殺害事件へと発展していた。事件とリスベットの事情は一見無関係に見えるが、高福祉や男女同権で名高いスウェーデン社会の、人種差別や暴力、女性蔑視、セクハラ、虐待などの側面が過去から現在まで繋がって浮かび上がって来るのだ。

北欧映画の斬新な演出

映画はのつけからかなりどぎついシーンがあり、よほど観るのをやめようと思った。けど最後まで観て本当に良かった。

最近の、妙な小細工や屁理屈こねこねのミステリーやアクション映画にはいい加減ウンザリしていたところで、久々に見ごたえのある作品に出会えた。

画面の雰囲気は暗く重い。ハリウッド映画のような華やかさも無く、スピード感にも欠けるのだが、内容の深さにズブズブと引きずられた。

リスベットが、くの一のように小柄な身体でチョコチョコ走る姿が可愛らしく、ミカエルのメタボな体型にはリアリティーがあったそう、ここでは女がメカに強くてすばしく、男が弱い。女は度胸、男は辛抱の斬新な演出が面白い。

映画作家がフィルムに定着させた想念を言葉で読み解いていく、映画との格闘の記録。

映画館をはじめて

小泉敦著・四六判並製240ページ・定価1995円

スターたちの魅力語り、映画の舞台を旅して、スターの横顔を垣間見て。映画ってスバラしい!!

人生は映画とともに

今市文明著・四六判並製240ページ・定価1995円

フツのおやじのヘンに熟っぽい映画評論プラス自作シナリオ集!

観る・書く・撮る

シネマフリークニあり

門馬徳行著・四六判上製本368ページ・定価2940円

18歳で上京して30年かけて見て書いた、注目の娯楽映画評論集!

ばってん映画論

久保嘉之著・四六判上製本240ページ・定価2100円

下町に生まれ育った元小学校教師による、懐旧の随筆集!

幼少思慕

下町、それは少年の故郷だった
河野章著・文庫サイズ上製本112ページ・定価1400円

有限会社 ごまめ書房

〒270-0107
千葉県流山市西深井339-2
TEL 04 (7156) 7121
FAX 04 (7156) 7122
http://www.gomame.co.jp

悲惨な現実祈るばかり

『闇の子供たち』

藤井陽子

光がない絶望的な暗闇

ネットですぐに多大な衝撃を受けて、ストーリーに多大な衝撃を受けて、気になったのでまずは原作を読んでみたが、私みたいのには最も不向きな内容だった。ヤバくなりそうな描写になると無意識に目を閉じたりわざと目を細めて文字を見辛くして、結局あやふやな読み方でページをめくる回数なんと多かったことか。

ヤバイもヤバイ。だって信じられないぐらいの犠牲になっているのが、幼い子供たちだから。

原作は、読まずじまいな個所だ

だけで本を閉じ、普段は視野に入らない所へしまつてしまった。目にするのも辛く、悲しく、怖いから。私みたいな人間は、世界にこんな現実があることを知るべきで

らなかったのかも知れない……。タイで実際に起こっている、幼児の臓器売買と幼児買春。総称して人身売買と言うのかな。こうして書いているだけでも気が病み

そう。なので、あえてストーリーには具体的に触れずに感想を述べたい。まず映画は、原作と違っていた。何といつてもクライマックスが全く別の展開だったし、細かい描写も原作の方が何倍もムゴく、キツイ。(と書きつつ、ムゴイ描写は

まともに読めていないけど)そして、ここは外せないから説明が必要なのだけど、簡単に言うと、子供が病気で臓器移植が必要になるとドナーの臓器提供を待つ

わけだが、それすら待てずに命を失うかもしれない子供もいて、そんな一刻の猶予も許されない事態に唯一の方法があるのだが、それが、タイの健康な子供から生きたまま臓器を取り出して移植するということにわかなには信じられない方法なのだ。

つまり、病気の一人の子供を救うために、タイの健康な一人の子供が犠牲になる。それが、人権を無視した裏の闇ビジネスになっている。

本当かどうか私にはわからないが、貧困極まる生活をしているタイの山岳地帯の家庭では、多額の報酬のために臓器売買や売春に自分達の子供を売る親が少なくないという。

それから幼児買春は、世界中から訪れる幼児性愛者達の性欲を満たすために、親に売られたタイの子供達が奴隷として強いられる生き地獄のような闇ビジネスだ。そこにも子供達の人権はない。客の要求に少しでも拒めば、さらに虐待される。子供が病気(エイズなど)になって「使えなく」なれば、ゴミ袋に入れられ捨てられる。それら一連の大罪に、罪の意識の欠片もなく生きる大人達が存在する。ムシズが走るとはこのこと。

光が一筋もない、黒を何重にも重ねたような絶望的な暗闇だ。そんな巨大な闇の中で、幼い子供達が明日もなく生きているこの現実をどう受け止めればいいのか。私なんか考えてもどうにもならず、私なんか直視できないシーンが

映画の中にもあった。

宮崎あおいの存在が救い

映画の中に出てくる主な日本人は、新聞記者の主人公・南部(江口洋介)、若い報道カメラマン・与田(妻夫木聡)、NGOの女性職員・音羽恵子(宮崎あおい)。それから、幼い病気のわが子の臓器移植にタイを選んだ夫婦(佐藤浩市、原田美枝子)。

恵子は、夫婦に臓器移植を止めようにと訴えるが、結局叶わなかった。

恵子は、タイの子供達の現実を知り子供達を救いたいと強く願い、支援団体の仲間と共に奮闘する。しかし闇はどこまでも大きく、太刀打ちできないのもまた現実だった。それでも、いつか……という思いで、執念を燃やす恵子。宮崎あおいの容姿も相まって、彼女は、この映画の中でオアシスのようだった。

主人公の南部は、不法な臓器売買の情報源を元に記事に書くべくタイで取材・調査を続けていた。恵子らと共に、闇の子供達を救いたいとの正義の炎を秘めていた。ところが、戦いの終盤になって思いもよらぬ彼の心の闇が露呈する。



『闇の子供たち』

そして最後の最後に、自ら命を絶ってしまうのである。

映画でのオチは、彼もまた幼児性愛者で、幼児を買春した男だったのである。終盤のふとしたきっかけで、彼の中で罪の意識と自責の念が噴出して（推測ではあるが、多分）、その後自らあつさり死んでしまった。これは原作と大きく異なるところ。なぜ映画では南部を幼児性愛者にして、さらには自殺させたのか。そこが大きなポイントだと思えたがいかがだろうか。

自殺する前にフラッシュバックするシーンがある。幼いタイの男の子の手を引いてホテルに向かう南部の姿。これで、彼が幼児性愛者で幼児買春をしたことがはっきりとわかった。

序盤に、花売りの幼い女の子を間近に見つめて吸い込まれそうになった南部が、「いかにいかに」という風にわれに返るシーンがあり、なるほどあそこで幼児性愛に

目覚めたのかなと思ったが、どうやら違ったようだ。ただの推測だけど、初お目覚めの「いかにいかに！」のブレイキではなく、その時彼はとくに男の子を買春した後で、おそらくその罪を封印していたことにより、幼い子供を見たら罪の意識に押し潰されそうになるのを必死に振り払っていたのではないかと。

主人公への疑問と謎

しかし南部には、疑問と謎が残る。

①彼はいつから幼児性愛者なのか？（死んでから発見された男の子の写真はいつから持っていたのか？）

②壁に貼られていたおびたしい数の幼児性愛犯罪者の逮捕記事は、日本で集めたものか、タイで集めたものか？ そして何のために集め、壁に貼り、さらには布で隠していたのか？

③前述した推測と若干矛盾するけど、そもそも買春したことに対する罪の意識は、本当はあったのかなかったのか？（それは、「お前ら汚い日本人」みたいに罵られたことにやけに憎悪を抱いていたので。「自分ののは幼児に対する純粹

な愛情だ」的な気持ちがあったのかな？）

ということ、なんとなく疑問が抜けなくて気持ち悪かったので、ここまで書いた後にもう一度見直してみることに。

スキップし放題での二回目だったが、思わぬシーンで、1回目には全く耳に入っていなかった南部のセリフをゲットできた。恵子に対して、「俺はあんたを裏切っている」と唐突にはつきりと言ったセリフだ。恵子は当然困惑していた。

このセリフ。疑問の③に関連するけれど、南部は買春の罪を封印していたわけではなかったのか！とドギマギ。意外にも容認しているんじゃないか。だったらなぜ自殺にまでいったのか、新たな謎になってしまった。

あと、疑問の②に関しては、多角的に推測された。仕事関係で調べていたら感化されて自分も：となったか、もともと興味があつて調べていたらたくさんコレクト出来て自己満足で飾っていたか、罪を繰り返せばいつかバレて自分も逮捕されるぞと戒めのつもりで張り付けていたのか。まあ、どうやら、自殺という事実を見れば、戒めの部分が大きかったんじゃない

かと思えた。

と、新たな疑問を含みつつ最後まで二回目を鑑賞したわけだが。

自殺の引き金（罪の意識に押し潰されたきっかけ）が、恵子のタイ語での「手を放して！」と日本語での「私は自分に言い訳したくない！」という言葉だったが、「手を放して！」に関しては、南部がホテルに向かう途中腕をつかんでいた男の子から言われた言葉とかぶっていたから、フラッシュバックして胸に突き刺さったのだろう。「言い訳したくない！」という言葉業にも反応していたところを見ると、彼は自分自身に対して言い訳を抱えて生きてきたのかもしれない。

なにしろ一方では、幼児の臓器売買に切り込み告発する記事を書くこうとしている正義の記者の顔を持つわけだから、幼児買春という事実をねじ伏せた表の姿はある意味カムフラージュとも言える。恵子の言葉で一気に罪の意識が降りかかり、自分が許せなくなってしまうたのかも。というか、自身身に絶望したんだと思う。

命の危険を顧みずタイの子供達のために日本には帰らないと頑なな態度の恵子を前に、自分の借り

物の正義や信念があまりにもろくも崩れてしまったのではないか。だって恵子のことを「世間知らずのバカ女！」なんて罵っていた南部である。自分が罵った相手が自分の何百倍も本気でタイの闇の子供たちを救おうとしているのだから、買春しつつ臓器売買を摘発するWスタンダードな自分が生きていく価値もないと思えるくらいめちゃくちゃ恥ずかしくなってしまう可能性もある。

そう。幼児を買春した自分が幼児の臓器売買を告発するということの矛盾。大きな自己矛盾を抱えてしまったよな南部さん。

あるいは、タイに行った目的は本当は幼児だったのか？ その建前が臓器売買の取材だったんだとしたら、実はめちゃくちゃ怖いじゃないか南部さん。

タイに來た理由は取材。でも目的は幼児。仕事と趣味が同じ場所

元氣な個性的な子供たち

「奇跡」(是枝裕和)

元氣な子供たち。それを温かく見守る大人たち。いいホームドラマだ。

九州の鹿児島と福岡で別居して

でできる。でも命の危険が迫ってきたならさっさと帰国するに限る。て、南部を極悪人にしすぎかな。すべての問題は貧困から

ところで、タイでの幼児買春には日本人も少なくないという。

そしてこの映画では、意外にもその代表を南部にして、罪を認識させて自殺させた。そうすれば一番説得力があるから。

日本にいと、私達は貧困な国について知らないことが多いけれど、どれだけ不法で非人道的な犯罪を知ったとしても、どこか遠くで起こっていることとして傍観者を続ける日本人に対して、鉄槌を下す意味がこの映画にはあったのかも。実は同じ日本人も関わっているもつと身近な問題というか、いつまでも傍観者のままではいけない大きな根深い問題として受け止めてほしい、という意味もある親。小学生の兄弟(まえだま

るかもしれない。

非常に重苦しい映画だった。私なんか観てはいけない映画だったかもしれない。これらの問題を意識しても、私には実際には何もできないし、何も解決しない。それどころか、知ったことにより大きなショックを受けて精神衛生上良くないかもしれない。

でも、まずは知ることに意味があると思いたい。この恐ろしい現実を。

そして、ただただ祈りたい。世界に、このような悲惨な生活を強いられている幼い子供達が一人でも減りますようにと。

もしかしたら、日本にいて、今までこの現実を知らなかった自分自身も、知らない間に間接的にこの犯罪と問題に加担していて、今もこうして加担している最中かもしれないと思うといたたまれない。なぜなら、これらの問題はすべて

シャン(オダギリジョー)。未だ芽が出ない。九州新幹線が開通することになり、下り線と上り線がすれ違ふところで願いをかなえれば奇跡が起ると信じて、兄弟は友達らと1泊2日の旅に出る。

子供たちが個性的で生き生きして

「貧困」から派生しているというからだ。なぜ、働いても働いても貧困の人達がこの世界には溢れているのだろうか。それが、先進国の意図的なシステムだとしたら、どうだろう。一番の極悪人は、日本を含む我々先進国の人間ではないのか。だとすれば、だとすれば、いつまで「真実を知らせない」ままでいるのだろうか。

幼い子供達の輝く人生と尊厳な命を、誰に奪う権利があるというのだろうか。

そんな権利は、誰にもない。どこにもない。

それなのに、現実には奪われている。この世界の、片隅で。

私は、祈る。これからも、ただ、祈り続ける。私にはそれしかできないから。

逆に言えば、私にも、祈ることができる。

祈るといふ、崇高な行為だけは。

いる。女優志願の女の子、イラストレーター志願の女の子、愚図な女の子、イチローをめざす男の子、図書館の女先生が好き男の子。旅先で出会う高橋長英とリリイの初老の夫婦にも味がある。

兄弟は最後何を願ったのか――。

イラスト&エッセイ 映像とその周辺あれこれ

〈2〉

中田好美

音の3D

バイノーラル録音

立体映像は有名ですが、音にも立体音響という技術があります。家電量販店などに設置されているホームシアターは、複数のスピーカーで音を再現し臨場感を演出するのですが、今回私が体験したのはヘッドフォンで聴く音の3Dです。

バイノーラル録音（バイノーラルとは「ふたつの耳」という意味です）という録音方式で、人間の

頭を模したダミーヘッドと呼ばれるものを使います。人間の両耳にマイクを装着して録音する方法もあるのですが、体格による音の聴こえ方の違いや、心拍音、呼吸音なども拾ってしまうという欠点がある為、ダミーヘッドが使われるようになりました。このダミーヘッドには色々な形をしたものがありますが、基本の形は顔面に目の窪みと鼻があり、耳が一番忠実に作られています。このダミーヘッドの両耳部分にマイクロフォンを組み込む事で、人間が耳で聴こえる時の音に限りなく近い状態で録音する事が出来るのです。この音をステレオヘッドフォンで聴くと、音との距離感や方向を360度耳で感じる事が出来ます。バイノーラル録音を聴く時は、イヤフォンまたはヘッドフォンが必須とされています。スピーカーで聴くと左右で独立した音を両耳で聴いてしまふ為、この効果が得られないからです。

このバイノーラル録音という技術を知ったきっかけは、ドラマCDでした。「耳元で囁いているようだ」という色々な人の感想に好奇心が湧き、CDを購入してみました。タイトルは『官能昔話』。

現在までにシリーズ7作品が発売されており、誰もが一度は聞いた事のある昔話をテーマに、人気男性声優による朗読で女性ユーザーから人気を得ています。収録作品はCDにより異なりますが『鶴の恩返し』『赤ずきん』『ロミオとジュリエット』などがあり、昔話を官能的な表現に言い換え、語られています。作中のセリフの一部にバイノーラル録音を用いて、声優が耳元で囁くように収録します。そうすると、声優との距離感や方向まで見事に表現されるので、ユーザーが作品を聴いた時、声優に耳元で囁かれるという疑似体験が出来るのです。音の世界を立体で表現出来るこの技術にとっても感動しました。

立体音響のアトラクション

東京ジョイポリスでは『生き人形の間』という立体音響を利用した複数参加形式のホラーアトラクションを体験出来ます。「暗闇の通路」「人形だらけの部屋」「戦慄の体感&立体音響」の3つの要素

から成り、徐々に現実を離れ、後戻りできない恐怖へと進んでいきます。暗闇の通路を進み、『生き人形の間』へ足を踏み入れると、

壁中びつしりと並ぶ日本人形が不気味な雰囲気醸し出します。日本人形に見つめられながら古びた椅子に座り、ヘッドフォンを装着すると部屋は暗闇になります。耳を澄ますと、人形寺の伝説となった尼の亡霊があらわれ、不気味な昔話を語りながら「生き人形」を作りはじめます。ゲストたちの周りを歩きながら、時には背後や耳元まで近づき語りかけます。話を聴いているうちにゲストたちは感付くのです。「生き人形」の儀式に必要な髪の毛、目玉、心臓が自分たちから選りすぐられる事に……立体音響のギミックにより、体の一部を切り落とされる、えぐられる、というグロテスクな恐怖が展開されます。奪われる部位はゲストにより異なる為、誰が何を狙われるのか、というランダムな恐怖が生まれます。ヘッドフォンを最後まで装着していられるのか、音の生み出す新たな恐怖への扉が開かれます。

ホロフォニクス

音楽の世界ではマイケル・ジャクソン、ポール・マッカートニー、ピンク・フロイドなど様々な楽曲に使われた立体音響技術がありま

す。Holophonics（ホロフォニクス）と呼ばれるアルゼンチンの技術者Hugo Zuccarelli（ウーゴ・スカレリー）によって開発された立体音響技術です。この技術は秘匿にされている為、詳細は明らかになっていませんが、バイノーラル録音と同じく、頭部から肩口までであるダミー人形を使用するそうです。独自の技術により、バイノーラル録音よりも左右上下の録音に秀でており、さらなる立体感を表現する事が出来るそうです。

マイケル・ジャクソンのアルバム『BAD』（1987年）に収録されている「I Just Can't Stop Loving You」冒頭ナレーションの囁きに、この技術が使用されているそうです。この収録時に撮ったとされる写真なのですが、頭部から肩口まであるダミー人形をベッドに横たわらせ、その隣にマイケル・ジャクソンとHugo Zuccarelli（ウーゴ・スカレリー）が写っている写真でした。これは私の想像なのですが、マイケル・ジャクソンはダミー人形の隣で添い寝をしながら、耳元で囁くように収録したのではないかと

いう事です。冒頭メッセー지의「少しの間あなたの横に寝ていたい」という感情を表現する為に、ここまでリアリティーを追求していたのかと、当時開発されたばかりの技術を取り入れていたマイケル・ジャクソンに、ただただ驚くばかりです。残念な事に現在発売されているCDはナレーション部分がカットされています。その原因とされているのが「ウーゴ・ザツカレリーから訴訟を起こされる。彼が開発した画期的なホロフォニクス・サウンド・システムが『バッド』の最初の200万枚に使用されたもののロイヤリティーを受け取っていない、として2100万ポンドの支払いを求められた。その後の1800万枚にはホロフォニクス・サウンド・システムは使用されなかったが、ジャケットにこのことが明記されていないかった。ザツカレリーは、『バッド』の200万枚以降のプレス分を購入した多数のリスナーは、ホロフォニクスを聴いているつもりで、実際は劣ったサウンド・システムを聴かされており、これによって彼の業務に支障をきたした、と主張した。」（『マイケル・ジャクソン全記録1958-2009』

より）との事でした。どうしてもこの技術を使用した囁きを聴きたかった為、オークションで1987年版『BAD』を入手しました。ナレーションは聴けたものの、クレジットにはHolophonics（ホロフォニクス）の記載はありませんでした。本来のサウンド・システムと劣ったサウンド・システムの違いは分かりませんが、私の耳には優しく囁くマイケル・ジャクソンの声が立体的に聴こえました。1987年版の『BAD』を持つている方はぜひ聞いてみて下さい。最近知ったこの技術が1980年代に作られていた事にとっても驚きました。

Holophonics（ホロフォニクス）で動画検索をすると、マツチ棒を擦って火をつける音や、ハサミ、ドライヤーの音を使った疑似美容室など色々な立体音響を楽しむ事が出来ます。リアリティーのあまりマツチ棒が燃えている間、自分の耳が燃えているような錯覚に陥り、温度まで感じてしまいました。動画サイトでこの音源を聴く事が出来るので、音が想像させる世界をぜひヘッドフォンで体験してみてください。

ゲーム業界では、カプコンから

ニンテンドー3DS用アドベンチャー「なぞむくやかた謎惑館〜音の間に間に〜」が今夏発売されます。この作品では立体映像と「オトフォニクス」と呼ばれる立体音響が織りなす、3Dの世界を体験出来るそうです。この作品をきっかけに、立体音響という技術が幅広い年代層に広まればいいと思います。立体音響がもたらす無限の可能性に、さらなる期待が高まります。

（参考文献）

エイドリアン・グラント著 吉岡正晴訳・監修『マイケル・ジャクソン全記録1958-2009』株式会社ユーメイド、2009年11月13日 初版第1刷発行p.228



声優から広がる世界

「声優」小史

声優という職業が定着するまで、様々な歴史がありました。まだ一般に知られていなかった頃、仕事を聞かれた際に大手スーパールの「西友」とよく間違われたそうです。

1925年、ラジオ放送が開始

されます。それに伴い、舞台や歌舞伎、映画などの既存作品を音声で放送するラジオドラマが始まりました。この頃はテレビもなく、映画も無声映画と呼ばれる、音声や音響、役者のセリフが収録されていない作品が上映されていたので、懂れの役者の声がラジオで聴けるというのは、聴取者にとって大変喜ばしいことでした。同年にラジオドラマの研究生を公募し、声だけで演技を行う専門の俳優が誕生します。当時新聞では「ラジオ才役者」と呼称していました。1941年に東京放送劇団がラジオドラマ専門に俳優育成を目的とした、養成所の研究生を公募。合格発表の際、「声優」という呼称が初めて使われたという説があり、これが現在における声優の由来だそうです。

テレビ普及期には、声優の需要が増えた一因とされる裏事情がありました。1953年に五社協定と呼ばれる、松竹、東宝、大映、新東宝、東映の五社が結んだ閉鎖的協定が作られます。その主な内容は、映画会社同士での専属監督や俳優の引き抜きを禁止するというものでした。監督や俳優の特例貸し出しも廃止され、所属会社の



アドレナリン2 ハイ・ボルテージ

クールなアクション満載

前作『アドレナリン』はR15指定だったのですが、続編となるこの作品はR18指定となり、さらに過激でバイオレンスな作品となっています。前作のテーマは、アドレナリンを出し続けなければ即死亡。本作のテーマは、人工心臓のバッテリーが切れたら即停止。ひとつのテーマをもとに、様々な行動を巻き起こすシェブ・チェリオス(ジェイソン・ステイサム)の姿がこのシリーズの魅力となっています。前作のラストシーンから物語は始まります。殺し屋のシェブ・チェリオスはマフィアと死闘の末、ヘリコプターから落下し、街のど真ん中を走る車に激突。激しく路面に叩きつけられ、瀕死となってしまう。まだ息が通う彼の前に、すぐさまワゴンが駆け付け、謎の中国系マフィアに連れ去られてしまいます。意識を失った彼が目覚めると、そこは手術台の上。意識が朦朧とする中、彼は切開されている自分の胸を見て驚きを露にします。自分の心臓が摘出される所を自分で見てしまうというシーンは、かなりグロテスクですが、手術シーンの常識を覆され笑ってしまいました。摘出された心臓の代りに取り付けられたのは、バッテリー式の人工心臓。人工心臓はバッテリーが切れたら即停止してしまうという代物。奪われた心臓を取り返す為に、人工心臓を充電しながら、謎の中国系マフィアをノンストップで追い続けます。おバカでハチャメチャだけど、クールなアクションも満載です。トランスフォーマーシリーズのイメージとはまた違った、ジェイソン・ステイスサムのコミカルな演技は必見です！

許可を得ずに他社と契約した場合五社はその人物に仕事をさせないという制約で、多くの軋轢を生みました。急速に伸びるテレビに対し、映画会社五社は劇映画の提供を打ち切り、専属俳優のドラマ出演も制限してしまします。この為テレビはソフト不足となり、海外ドラマや洋画が数多く放送されるようになります。映画俳優は五社協定により吹き替えが出来なかつた為、吹き替え専属俳優となつた声優の需要が増えることになりました。ブームの中心となつたのは、『0011ナポレオン・ソロ』のイリヤ・クリヤキン(デヴィッド・マッカラム)役で注目を集めた大御所声優の一人、野沢那智さんです。この役の収録時には、スタジオの周囲に数え切れないほどの女性ファンが詰めかけたそうです。当時、声だけの仕事は日陰者扱いをされていた為、スタッフは嬉しさのあまりファンをスタジオの中に入れてしまい、握手やサインに応じた事もあったそうです。その後もアラン・ドロンやロバート・レッドフォードなど様々な俳優の吹き替えを担当し活躍の場を広げました。

1980年前後になると、声優

以外の独立した活動が行われるようになります。人気声優5名により結成されたバンド、「スラップスティック」が代表的です。『巨人の星』の星飛雄馬役で有名な古谷徹さんや『うる星やつら』の諸星あたるを演じた古川登志夫さんのメンバーで『意地悪ばあさん』の主題歌を歌うなど、アイドルの声優の先駆けとなり、多くの声優がレコードを発売し、万単位で売り上げたそうです。この時代からアニメ雑誌が創刊され始め、当時発売された『アニメージュ』では宮崎駿監督が『風の谷のナウシカ』を漫画連載していました。

1990年代、洋画の吹き替えやアニメに続き、テレビゲームにも声優が起用されるようになり、声優の活躍の場はさらに広がります。この頃から、声優がパーソナリティを務めるラジオ番組や、声優がメインとなったアニメ、ゲーム作品のイベントなどが増えていきます。この時代は女性声優の歌手活動が隆盛で、発売したCDがオリコンチャートの上位を獲得するなど、女性声優のアイドル化が進みました。1992年から放送開始となった、声優がパーソナリティを務めるご長寿ラジオ番

組があります。「林原めぐみのTokyo Boogie Night」2011年6月には放送1000回を迎え、放送回数をさらに更新しています。林原めぐみさんは、『新世紀エヴァンゲリオン』の綾波レイ役でも有名で『アニメージュ』が主催するアニメグランプリでは声優部門1位を通算12回獲得し、歌手としても多数の記録を作っています。

2000年以降、女性声優だけでなく、男性声優のアイドル化も進み、歌手としてCDを発売し、ライブを行い、舞台や映画、写真集まで活動分野は多岐にわたっています。2006年には、洋画放送開始50周年にあたることを記念として、「声優アワード」が創設されました。その年度に最も印象に残る声優や作品を対象に、その業績を称え、声優業界の発展と新人育成の場として毎年3月に開催されています。2011年3月に開催された第五回「声優アワード」で受賞された方々の一部をご紹介します。主演女優賞は豊崎愛生さん。作中で登場人物が使用している楽器が品薄になるなど、社会現象も巻き起こした『けいおん!』の主人公、平沢唯役で

一躍有名となり、スフィアとしてのグループ音楽活動、ソロ音楽活動共に活躍されています。助演男優賞は中井和哉さん。『ONE PIECE』のロロノア・ゾロ役や『銀魂』の土方十四郎役などでファンから親しまれています。特別功労賞は野沢那智さん。数多くの洋画吹き替えの他、アニメ作品への出演、ラジオDJやナレータも手掛け、役者、舞台プロデューサー、舞台演出でも活躍されました。富山敬賞(声優という職業を各メディアを通じて多く広めた男性に贈られる賞)は小山力也さん。『24』『TWEENTY FOUR』シリーズのジャック・バウアー(キープ・アー・サザランド)役で7年に渡るシリーズ作品を支えました。賞は全部で12部門あり、各々の定義に従って選定・評価・贈賞されます。一般投票も受け付けているので、ファンも投票に参加する事が出来ます。「声優アワード」の公式サイトでは、第一回からの受賞者歴を見る事が出来るので、興味のある方はぜひご覧下さい。

近年では声優のメディア出演も増え、2008年からは、「アニソンぷらす」というアニメ、声優、アニメソングに特化したバラエテ



第五回「声優アワード」で受賞された方が演じたキャラクター

声優のイベントとはどのようなものなのか、私が参加した声優のイベントについて少し書きたいと思います。『黒執事』という作品のイベントに参加したのですが、会場入り口には出演者へのプレゼント受付が設置され、思い思いの形で沢山のプレゼントが贈られていました。人気声優と呼ばれる方々のファンの多さを初めて肌で感じました。イベントはバラエティーに富んでいて、作品のイメージソングを歌うテノール歌手とピアニストの生演奏や、声優へのクイズ出題、『黒執事』のワンシーンにあるテブルクロス引きなどが行われ、会場を沸かせていました。特に印象深かつ

たのが、作品のワンシーンを生アフレコするという企画で、マイクを通してホール全体に響き渡る声は、鳥肌が立つほど感動しました。声優が持つ声の素晴らしさを体感し、声優と作品の深い繋がりを感じました。現在も様々なイベントが開催されていますが、作品の魅力だけではなく、声優が持つ人柄も、ファンを生みだすきっかけとなっています。

声優のイベントに参加

する事で、声優の人柄が見られるようになりました。巧みなトークや無茶ぶりへのアドリブは面白く、演じているキャラクターではなく、声優自身に惹かれるようになりま

たのが、作品のワンシーンを生アフレコするという企画で、マイクを通してホール全体に響き渡る声は、鳥肌が立つほど感動しました。声優が持つ声の素晴らしさを体感し、声優と作品の深い繋がりを感じました。現在も様々なイベントが開催されていますが、作品の魅力だけではなく、声優が持つ人柄も、ファンを生みだすきっかけとなっています。

50年以上の歴史を経て現代へと続く声優業。今では子供の頃からアニメやゲームに親しみ、声優を目指す人が増えています。子供達の憧れる職業の上位にもランキングされ、様々な人に夢や希望を与えています。

子供の頃から大好きな洋画やアニメのキャラクター。今思えば、そのキャラクターの魅力を最大限に引き出し、命を吹き込んでいた声優という職業があったからこそ、その世界に魅了されたのだと思います。

野沢那智さんは2010年10月30日に肺がんの為、ご逝去されました。私のイメージの野沢那智さんは、『ダイハード』全4シリーズを熱演した、ジョン・マクレイン役（ブルース・ウィリス）です。

吹き替えでは独特の言い回しでアドリブがはさまれ、思わず笑ってしまうユーモア溢れる演技が大好きでした。細身の野沢那智さんが、ジョン・マクレイン（ブルース・ウィリス）のアクションを熱演していたところ、酸欠になってしまったという収録秘話があります。二枚目、三枚目から狂気に満ちた悪役まで、幅広い演技で人々を魅了しました。声優以外にも「劇団薔薇座」を設立し、のちに有名となった玄田哲章さん（アーノルド・シュワルツェネガー役など）や戸田恵子さん（『それいけ!アンパンマン』のアンパンマン役など）など、数多くの声優が在籍し、多彩な人材を育て上げました。2003年には「オフィスPAC」を設立し、俳優、声優の人材育成の代表として尽力なさいました。

野沢那智氏のご逝去を謹んでお悔やみ申し上げます。

魅惑のリアル漢文世界

——中国大河テレビドラマの薦め——

美羽

「大明帝国―朱元璋―」ではまる

いまだき中国という名を出すと嫌中国や反中国といった反応が返ってきそうだが、私は中国の大河TVドラマに魅せられ、昨年からずっとマイブームが続いている。

特に主に金庸原作の武侠物と言われるジャンル・三国志や孫子の兵法などの歴史物のジャンルに魅せられ、ほとんど中毒のように見続けている。

地を埋め尽くす大軍が激突する壮大なスケール、思わずうなる納得のキャスティングに最高の脚本。日本ならこれはもう映画のレベル

のドラマが70話だの90話だのと、えんえんとTVで見られるとは、なんとこの贅沢なことだろう。三国志の中盤（たしかDVDの16巻目くらい）で、砂塵に軍馬いなく八門金鎖の陣など目にしてしまふと、これをタダで見ることが出来る中国の人たちが本気でうらやましくなる。

「レッド・クリフ」や「グリーン・デスティニー」といった映画を楽しく見た方はどうぞTVドラマにもトライしていただきたい。TVドラマといえども映画に遜色ない水準で作られているのに驚かれる事と思う。しかも、映画の上映時間のせいぜい2〜3時間と比べたらドラマで語られる人間描写の丁寧さ、厚み、きめ細やかさは比べるべくも無い。何十年にも及ぶ国家間の戦闘や群像ドラマを描くには映画の上映時間ではとても足りない。どう考えてもTVドラマに軍配が上がる。

しかも眼前で展開されているのは、かつて胸躍らせながら高校の授業で学んだ史記や故事成語、漢詩といった漢文の世界そのもの。リアル漢文世界なのだ！心を捉えられないわけがない。生きている間にこのようなものに出合えるな

んて思わなかった。なんか「見る事が出来てありがたい」とさえ思ってしまう私がいる。

私は日本の大河テレビドラマを見なくなつて久しい。じつは現在テレビすら所有していないのだ。何度も期待を裏切られ、薄くバカげた内容にあきれ果て、絶望した上でテレビは捨ててしまったからだ。それが、このような形で望んでいた大河歴史ドラマに出あうことになるうとは！大河ドラマとはかくあるべき姿だと思われるものに出会えたうれしさは格別だ。

TVドラマといえばハリウッド製や韓国のドラマを思い起こす人が多いと思うが実は中国は世界第二位のドラマ生産国なのである。しかし中国の大河TVドラマと言っても、多くの人にはピンとこないかもしれない。なにしろ、普段TSUTAYAさんやインターネットドラマを見る習慣のない人にとつては、まるで接点が無いからだ。韓流ドラマは知っていても華流はご存じない方が多いのではなからうか。それはですね、非常に、ひっじょ〜に、もったいないことです！

私はたまたまGyao(ギョオ)でやっている無料のドラマで「大

明帝国―朱元璋―の第1話を見て

衝撃を受けた。もう第1話から完全に魅了され、ひき込まれてしまった。実力以外の情実などでキャスティングがなされる日本の残念なドラマを見て違和感をいだいていた私だったが、中国のドラマは本当に、「よくこの役にこの俳優さんがいたものだ」と感心するキャスティングである。音楽も良いし、なんといってもこの水準を支えているのは脚本の力が大きい。言葉は「大河ドラマ」だが、日本のものとはまるで次元が違う別物といつてよいと思う。「大明帝国―朱元璋―」「龍票―孫子の兵法―」「劉邦の大風歌―創世の龍―李世民―」どれも見ごたえがあつて面白かった。中国の文化水準、恐るべし。

さて現在視聴中なのは三国志だ。いつだったか「魏・呉・蜀が百万の軍勢を動かしていたそのころ日本では海辺で貝を拾っていた」という2ちゃんねるの書き込みを見て笑ったものだが、日本の戦国時代がおもちゃかイミテーションに思えてしまう圧倒的なスケールで歴史絵巻が展開されている。

しかも、普段私たちは「日本は日本の文化圏」だと思つていて中国を意識したことはないが、明ら

かに日本は古代から続く中国の文化圏にあるということも思い起こさせてくれる。そういえば着物のことは「呉服」って言うけれど、ドラマを見ると紀元2000年位の呉の人たちが確かに呉服を着ておりますね。

この2010年版「三国志」(何しろドラマ大国なので「三国志」で検索するだけでは沢山の古今のバージョンがヒットしてしまうのがつらい。少し前まで最新の三国志だった、すでに映画で三国志が作られている。Youtubeで「新版三国」または「新三国」で検索すると出るのがこれ。ちなみに映画は電影と言い、テレビドラマのことは電視と言う。)このテレビドラマ版「三国」(原題は「三国志」でなく「三国」)の脚本を書いているのが私の好きな脚本家、朱蘇進だ。(チュー・スージン。漢字に日本語発音の「しゅそしん」でルビを振ってくると良いのに、最近カタカナで音が書かれているので、検索に苦労する。)大好きなので、少し朱蘇進にも触れておこう。「大明帝国―朱元璋」、「康熙王朝」、「三国」の脚本を手掛けている、この脚本家の妻さはまず子供でも大人でも楽しめ

る入りやすさと分かりやすさだ。しかもさらに人生経験を経た大人の視聴者をもうならせる深さも提供してくれる。その手腕は見事というほかに、大人の鑑賞に堪えるドラマを大河で描き切る力技には驚かされる。新しい魅力を持った人物像が歴史絵巻の中で躍動する、キャラクター造詣が見事だ。

加えて漢籍に造詣が深く(当たり前か)故事来歴を丁寧に見せてくれ、漢文に関心がある向きをも満足させてくれる。つまり非常に上質の、心に響く歴史ドラマを提供してくれるのだ。私も今まで色々なドラマを見てきたが、この水準を超えるものにまだかつてお目にかかったことが無い。というか比べる対象すら無い。これを「本当に面白い」としか表現できないのかもしれない。これを「朱元璋」のドラマでいえば、例えば二人の軍師、劉伯温と李善長(この二人がまた本当にはまり役なのだが)、この二人の軍師がニコニコ穏やかに語り合うシーン。しかしその内面では生死をかけた火花を散らす戦いが繰り広げられていたりする。こういったすさまじい心理戦の緊迫感を描き切る、このあたりが朱蘇進の真骨頂であ

る。虚実、外面・内面といった二重構造を朱蘇進はじつに巧みに見せてくれる。

白土三平ファンにお勧め

真偽はともかく史実をもとに描かれた歴史物はさておいて、痛快アクションで魅せてくれるのが、武狭物というジャンルだ。これも大河ドラマでたくさん作られている。おもに金庸、梁羽生、古龍という三作家の小説が原作だが、人氣、内容ともに金庸が頭抜けている。

金庸のものはみんな面白い。制作年が新しいものほどお勧めだが、射鵬英雄伝だけは例外的に2003年版が最新のものより楽しい。

仙人、英雄、美女、人外が壮絶アクションの秘儀を繰り広げ、文字通り宙を舞う。思わずわくわくしてしまうこのテイスト、どこかで見たと思ったら、小さいころから大好きだった白土三平の忍者マンガの世界に通ずるものがあつた！横山版三国志や漢文がお好きな方、白土三平の忍者マンガが好きだったあなた、中国ドラマをぜひどうぞ。お勧めですよ。

中国のドラマ・映画を韓流(はりゅう)に対して華流(はかりゅう)に

ゆう)と言うらしい。しかし、世界第2位のドラマ生産国、中国のドラマを見ようと思っても、ほとんど人目につかないのはいったい何故か。TSUTAYAでも韓流の棚はいくつもいくつもあるのに、常に最も探しにくい所に申し訳程度に華流ドラマがひっそりあるのを見ると、なにやら政策的・意図的なものすら感じてしまう。これ、内容で完全に負けてつから日本の視聴者の目からわざと隠してませんか？それとも日・中が仲良くなると困るCIA・電通が邪魔してののか？あまりにも不自然すぎる。とにかく見たかったって探し出せません！

「水滸伝」が見たいよ！朱蘇進の「アヘン戦争」はどうしたら見られる？「趙家の兄弟」も見たいよ！本当にどうして見られないんだ？くだらないドラマは死ぬほど溢れているってのに！

中国は世界第2位のドラマ生産国なのに！

大事な事なのでつい何回も言っています。

アクション・サスペンス・SF 映画日誌

(2011. 1 / 8 ~ 4 / 20)

流 漂 介

【評価】★★★★傑作、★★★★

★☆☆かなり面白い、★★★★
楽しめる、★★★★面白くない

1 / 8 「アンストッパブル」(トニー・スコット) 無人機関車が危険な荷物を積んで暴走を始めた。それを食い止めようとする機関士(デンゼル・ワシントン)と車掌(クリス・パイン)。パトカーや取材のヘリが暴走機関車を追いかけるシーンはたしかにスピード感、サスペンスはあったが、最後がまいちだ。人間ドラマにもっと深みがほしかった。★★★★

1 / 22 「グリーン・ホーネット」

(ミシエル・ゴンドリー) 新聞社のさえない社長(セス・ローゲン)と部下の空手の達人カトーが街のダニどもを一掃するアクション映画。社長の秘書にキャメロン・ディアス。グリーン・ホーネットは格好悪くて強くない。一方、マフィアのボスも見かけは怖そうでない(心は残忍)。異色のキャラクターの組み合わせがこの映画のねらい目。最後の派手なアクションは、新聞社のビルの中。映画は3Dだが、3Dでなくてもよかった。昔のテレビ映画のリメイク。当時、カトー役はブルース・リーだった。本編でも蜂が飛ぶようなテレビのテーマ曲が最後のところでちよつと流れた。テレビの方は主人公も格好良かったと思う。★★★★

1 / 22 「完全なる報復」(F・ゲイリー・グレイ) 作りすぎ。妻子を殺されたにもかかわらず犯人は5年の懲役刑。主人公(ジェラルド・バトラー)は犯人ばかりでなく、司法取引をした検察官など関係者を皆殺しにしようとする。復讐物語を描いているのだが、絵空事になっている。なぜ司法取引によつて凶悪な犯人が5年の刑期で済んだのかをもっと描いたほうが面白い映画になったのではないかな。★★★★

1 / 29 「RED/レッド」(ロバート・シユベンケ) 痛快アクション。面白い。引退した年金暮らしの元CIAのメンバーが命を狙われることに。彼らが結束して巨悪に立ち向かう。豪華な俳優陣をそろえた。ブルース・ウィルス、ジョン・マルコビッチ、モーガン・フリーマン、ヘレン・ミレン。アーネスト・ボーグナインも久々の登場だ。監督はかつて「フライトプラン」をつくっている。★★★★☆

1 / 30 「白夜行」(深川栄洋) 東野圭吾の傑作小説の映画化。できとしてはまずまず。原作が面白くてきているので、下手に撮らなければ駄作にはならないだろう。可愛そうな子供たちという視点でまとめた。主人公二人の心の闇はなかなか描き得ない。原作でもそう。ミステリの面白さを描くほうにシフトしている。それ以上望むとまた別の物語になってしまうだろう。★★★★

2 / 5 「ザ・タウン」(ベン・アフレック) 銀行強盗もの。面白く見せる。一点ひっかかるのは、強盗犯(ベン・アフレック)が銀行の女店長に近づいて恋に落ちる部分だ。強盗が発覚しないように関係者には近づかないのが自然なのだが。野球場の金庫を襲い警察と銃撃戦になるシーンなど見せる。銀行強盗団を操る町のボスがワルで、これを退治するのはいい。ボスにピート・ポスルスウェイト。この映画を見る前に新聞で死亡記事を読んだ。いい脇役だった。★★★★

2 / 13 「あしたのジョー」(曾利文彦) 宿命のライバル力石徹(伊勢谷友介)。喧嘩屋をボクサーに育てた男・丹下段平(香川照之)。主人公とこの二人のドラマだ。伊勢谷は来年の映画賞、助演男優賞を多くさらうだろう。ボクシングシーンのパンチが当たって顔がひん曲るシーンのCGはうまくできていた。力石とジョーの宿命の対決(関係)がとにかくこの物語の核で、それがなんともいいのだ。高森朝雄とちばてつやのコンビが生んだ最大傑作。マンガもアニメも映画もいい。★★★★☆

2 / 13 「太平洋の奇跡 フォックスと呼ばれた男」(平山秀幸) 戦時下のサイパン島。映画の内容は米、日、双方に気を使っているように思えた。戦後65年経っており、どちらを非難するのも憚られると、の気持は製作側にあつただろう。

戦場だから人間の生き死には当然のごとくあるが、あまりひどい場面は描かないようにしたのであらう。唐沢寿明の刺青の兵隊がよかった。★★★☆☆

2/19「男たちの挽歌」(ソン・ヘソン) 脱北した兄弟がやくざと刑事に——。ジョン・ウーほどのできのいいガンファイトがなかったのが残念。★★★☆☆

2/20「戦火の中へ」(イ・ジェハン) 戦争アクション。なかなか見せる。戦争映画は「ブライベイト・ライアン」以来、戦闘シーンが迫力を増している。朝鮮戦争を題材に学徒兵がある中学校に立てこもって北朝鮮軍を迎撃する様を描く。★★★☆☆

2/27「悪魔を見た」(キム・ジウン) 「グッド・バッド・ウィアー」の監督。復讐もの。恋人を殺人鬼に殺された男が、恋人の無念を倍にして返すように少しずついたぶりながら復讐していく。サイコ野郎ばかり(この二人以外にもタクシートの運転手と乗客が殺人者殺人鬼の友人も殺人鬼)出てくるので、彼らをすべてからまして、ブラックユーモア風の話にすれば面白くなったのでは。★★★☆☆

3/5「ツォリス」(フロリア

ン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク) 「善き人のためのソナタ」の監督。観客をだます類の映画だったが、楽しめた。スター同士の競演で、風光明媚な観光地を舞台にしたラブ・サスペンスは楽しい。謎の女(アンジェリーナ・ジョリー)はイギリスの諜報機関から追われている。女はマフィアの金を盗んだ男から列車内のある男を誘えと指示を受ける。女は数学の教師(ジョニー・デップ)に近づく。この教師がマフィアの金を盗んだ男と間違えられ、マフィアと警察から追われる。★★★☆☆

3/19「SP 革命篇」(波多野貴文) 3/11の東北関東大震災後、東武野田線も間引き運転ながら終日運転再開。T O H O シネマズ流山おおたかの森も再開。体感できる余震は見ている間、1〜2度、それも小さい揺れがあった程度。映画は国会がSPらに乗っ取られるのだが、話に無理があるので、楽しめない。★★★☆☆

3/28「ザ・ファイター」(デヴィッド・O・ラッセル) ボクシング映画は面白い。不利な試合を一発逆転してしまうのは感動的。咬ませ犬だったボクサーが兄の果たせなかった夢、世界チャンピオン

になるまでを描く。兄役のクリスチャン・ベールが体重を絞って、蓮つ葉だが、弟思いの元ボクサーを好演。アカデミー助演男優賞受賞。母親役のメリッサ・レオもアカデミー助演女優賞。★★★☆☆

3/31「わたしを離さないで」(マーク・ロマネク) キャリリー・マリガン、キーラ・ナイトレイら旬な女優陣の共演。原作はカズオ・イシグロ。現代の架空の話。ファースト・シーンは看護師のキャリー・マリガンがガラス越しに手術台に乗せられた男を見つめているところ。彼女の表情も生気がない。それから、彼らの子供時代へと話は遡る。全寮制の学校の生徒たちの物語——という始まり方なので、SF的な意外な展開に固唾を呑む。★★★☆☆

4/9「ザ・ライトーエクソシストの真実」(ミカエル・ハフストローム) エクソシストが悪魔にとりつかれる。信仰心の薄かった若い神父が神の存在を認めるようになり——。この映画もがんばってはいいるが、改めて「エクソシスト」は、非常によくできた映画だと思う。あの映画を超えるのは並大抵ではない。★★★☆☆

4/16「エンジェルウォーズ」

(ザック・スナイダー) 義父のたくらみで精神病院に入れられたベイビードール(エミリー・ブラウン)が仲間と脱出を試みる。映画は幻想のなかに幻想が展開される。それはヒロインの幻想のように思える。中国風の寺で師匠から刀を賜り邪悪な巨大な武器を纏った巨人たちと戦ったり、ナチス時代の兵士(体の中がガス状態)、未来のロボットと戦ったりする。このとき、ベイビードールが先頭に立って刀を背中に背負って、幻想の中の売春宿の娼婦、つまり精神病院の患者(本当の患者かどうかはわからない)らとともに戦士になって戦う。★★★☆☆

4/20「孫文の義士団」(テディ・チャン) 孫文が東京から中国へ戻ってくる。清朝政府の暗殺団と孫文のボディガードの死闘を描く。暗殺団の首領、ボディガードらの人物描写(車引き、臭豆腐を売る大男、義母を愛して腑抜けになっってしまった鉄扇使いの達人、賭博好きの男、大商人の息子)がよくできている。ボディガードの元締めの大商人の心の揺らぎ(革命派の心情は理解するが、自分は傍観者でいたい。しかし、そうもいかない)も書けている。★★★☆☆

限りなき大胆さと 臆病な程の繊細さの 間(あわい)の中で

鈴木輝夫

それは、デジャビュであった。すなわち、既視感。一度として経験したことがないのに、かつて、経験したことがあるかのように感じることである。建物の大方は大きく崩壊して無残な瓦礫と化し、そこにあつたであろう草木は、根こそぎ流されて至るところに散乱している。

ヘリコプターから撮られたであろうその荒涼たる光景は、どこまでもどこまでも続くかのようにな延々とながれていく。——東日本大震災——のテレビから流れた映像である。それは巧まずして、米戦略爆撃機B29によって絨毯爆撃

され、焦土と化した日本の多数の都市を思わせた。戦後生まれの私に、もちろん、そんな体験などないし、現実にもその焦土など一度も見えてはいない。

あまりに悲惨極まりなき大震災の空からの映像が、実際には見てもいない、米軍に爆撃されて焼野が原となり果てた戦後すぐの日本の都市の風景に大きく重なり、私をして思わずデジャビュをおこさせたのである。戦後すぐのフィルム映像。ことに、日本では当時手に入れることのできないカラーフィルムで空撮された鮮烈なる映像は、極めて強烈に眼に残っていて、それを見たのは敗戦から二十年以上経っていたからであろうが、さすがに年を重ねてカラーバランスは大きく崩れて赤茶けた色に退色し、その粒状性は極めて悪く、何とも不快なざらつき感を来しているが、それがかえって真に迫りくる妙な臨場感を与えていた。占領軍たる米軍が撮った、焦土と化した日本の空撮カラー映像。

私が、各テレビ局で長い時間に渡って流された大震災直後の空撮映像に、米軍撮影の敗戦直後の焦土化したカラー映像を思わずダブらせたのも、自己弁護的に記すこ

とを許してもらえば一理はあると思っている……。言論空間では、ことに、日本国の現状を憂える保守系の月刊誌では、今度の大地震や大津波や原発事故を——国難——(総理も違う意味で言っているが……)と捕え、さらには、戦争——でもあるとの言説が見受けられる。私も多くの点で、そのように思う。まさに、——戦争——なのである。

日本以外のあらゆる国でこのような事態になれば、国家の指導者たる人物は、間違いなく、「非常事態宣言」を発しているだろうし、おそらく、独裁国家においてはその大多数が「戒厳令」を敷くであろう。何も、戒厳令が良いと言っているのではない。一国の安危を握る指導者(日本の場合は、とりもなおさず総理大臣)たる者、国家存亡の機にはその決意のほどをすべての国民に真摯に告げ、国民をしていやでも奮い立たせなければならぬ。指導者のごく短い言説で、衰亡や滅亡の累卵の危機から救われた事例は、古来から洋の東西を問わず枚挙に遑がない。

ところが、我ら日本国民が命運を託すべき市民運動家あがりのこの首相は、ただただ、ポピュリズム

の極みを己の確たる政治信条となし、党内(この政党の議員連中も、大半はポピュリストそのもの)の摩訶不思議な政治力学で、たまにその座についたにすぎないのである。戦後、ほぼ一貫して政権の座を独占してきた、政党のあまりの金権体質と腐敗体質とに、有権者すなわち国民は大いに怒り、思想も政治信条も全く異質の寄せ集め集団である、このポピュリズム政党に政権を与えたのだが、何のことはない、その当の国民の多くも、戦後六十年以上を経るうちに、しだいしだいのうちにポピュリズムの姦計の甘味さに嵌り込み、今やそのポピュリズムの発する腐臭すらも、全き良き薫かのように感じる驚くほどの愚民と化し、その結果として、「生活が一番」などという言わずもがなの戯言を、一筋の恥じらいもなく声高に叫ぶ輩の集団に政権を与えたのだ。

大東亜戦争敗戦(決して終戦ではない。日本は敗れ去ったのである)、そして戦後。大方の顰蹙と限りなき誤解を承知の上で記せば、古今東西、戦争に敗るるのは——時の運——であるのだから詮なきことなのだが、問題は——敗れし

後——にこそあるのだ。嘘だと思
うのであれば、各国の通史をざつ
と流し読みするだけでよいから、
まず読むことを奨める。大東亜戦
争に敗れて六十有余年、あの時の
占領国（主に米国なのだが）との
何とも言えない決着のつけ方が、
あの『日本国憲法』を含む新たな
出発の曖昧さが、今や醜悪なる
怪物にまで大きく成長してしまっ
たポピュリズムの萌芽を見る。

戦勝国の占領中ならば、それも
致し方なかったであろうが、昭和
二十七年、サンフランシスコ講和
条約によって独立を回復した時、
たとえどんなに「危険」であらう
とも、真の独立——こそを考える
べきであったのだ。とまれ。本論
とは直接関係ないことを書き過ぎ
た。私が言いたいことは、今や敢
然として、——戦後のオトシマエ
——をつけるべしと言いたいのだ。

『日本の悪霊』（監督・黒木和
雄、原作・高橋和巳）で佐藤慶が
演じたヤクザの名台詞、「オトシ
マエに時効はねえっ」であり、さ
らには、三島由紀夫の『英霊の声』
の有名な最後のリフレインから寸
借詐欺（!?）をさせてもらえば、
「などで日本国憲法は不磨の大典
となりたましい」となるのだが

……。『英霊の声』の有名な繰り
返しは、「などですめろぎは人とな
りたましい」である。三島は「人
間宣言」をした昭和天皇に、嫌悪
感を覚えていたのだ。

私は必ずしも三島のような天皇
観には同意しないのだが、今や、
——戦前からの父祖の遺訓を忘却
して食い潰してしまった——とい
ってよいし、誤解を恐れずに書け
ば、日本はたった一度の敗戦で他
国では考えられない異常な様変り
を見せ、而して、その結果として
の現在、醜怪なるポピュリズムの
極みへと浮遊して漂っている。果
して、あの——戦後——とは、何
であったのか？ 今次の東日本大
震災を戦争と捕らえるのならば、
今はまさしく戦後である。——第
二の戦後——。

濃密に瀰漫して腐臭すら放つこ
のポピュリズムに、果して第二の
戦後は、いかなる様相を呈するこ
とになるのだろうか？ 少々長く
なったが、大震災のごくごく個人
的な感慨を書いた。が、私がこれ
から記そうとする人物なら、恐ら
く、こんな啖呵を切るであろう。
「やかましいっ——。そがなか
ばちたれおって、おどれなんぼの
もんじやい、おおっ」と。

異常な様変りを見せた戦後を、
ある意味、それとの完全な添い寝
を見せて甘い汁を貪り、そしてあ
る意味、それとの絶対的な抵抗で
もって諍い、実に鮮烈極まりなき
生き様を刻みつけた男の話である。
さらにはその男の生き様とは全く
違い、戦前の極めて閉塞状況の中
で、一閃の煌きに生死を賭けた男
の話も書きたい。いや、正確には
その男を演じた役者である。さら
には、それを造形せしめた男達を
もた。

「村岡が持つとるホテルは何を
売つちよるの。淫売じやないのっ。
言うならアレらはオメコの汁でメ
シ食うちよるんどっ」

その驚嘆すべき台詞がその男の
口から吐かれた時、正直、飛び上
がらんばかりに驚いて腰が浮き、
映画館の闇の中の軽いさんざめき
を見回したい衝動に駆られた。が、
次の瞬間には、濃密なる濡場が
延々と続く官能小説（たとえば千
草忠夫師のような）を読んでいる
時のような、ぞくぞくする妖艶な
るエロ感を感じていた。

嗚呼、何たる台詞——。日本映
画史上初めて（おそらく）、方言

とはいえ女性生殖器の名が発せら
れた瞬間であつた。それはオメコ
という関西から中国地方で一般に
称されている言葉である故、かえ
って強烈なインパクトを持つて迫
り、赤面するような恥ずかしさと
おろおろするほどの衝撃を与えて
いた。時に昭和四十八年四月。決
して短くはない日本映画史におい
て、ついに、この驚愕すべき破天
荒なる台詞が吐かれたのであつた。
ブルーフィルムならいざ知らず、
『映倫』のお墨付きの一般公開映
画では初めてであろう。

その記念碑的映画こそ、彼の
『仁義なき戦い 広島死闘篇』。吐
いたのは——狂犬の犬友勝利——。
正確にはその狂犬のカットンを演
じた、千葉真一という役者。『仁
義なき戦い』シリーズについては、
その公開から四十年近くが経ち、
その間にありとあらゆる観点から
様々に語られ、それ故、私ごとき
が論じてみても、今さら、新たな
展開が出てくるはずもない。多
くの評論家達が、それこそマニア
ックなまでの著作をものしている。
四十年近くも経て、今さら、『仁
義なき戦い』でもないだろう……。
近くの若者にも聞いたのだが、そ
の題名は知っていても、見たこと

がない人も多かった。当り前だ。四十年は長いのだ。その『仁義なき戦い』を、先にも記したあの大地震災が、私に強烈な形でそれを思い出させた。テレビなどからだけでなく、活字メディアからも情報を得たかったのだ。テレビが伝える大震災の情報は極めて平板で、言わば、良い意味でも悪い意味でも「イベント化」してしまう。私はその醜怪さに耐えられなくなっていた。

硬軟取り混ぜて多くの月刊誌・週刊誌を買ひ漁った。その中に、近年は全く読まなくなつた彼の『週刊アサヒ芸能』があつた。『アサ芸』——。全き若い頃、この何

とも胡散臭い週刊誌の大ファンであつたのだ。風俗情報の諸々はともかく、ヤクザ世界、政界、スポーツ界、芸能界、あるいはギャンブルなどなど、その何もかもどこか怪しげでにわかには信じ難く、情報源の不確かさやネタそのものが眉唾ものが多くて、私は密かに、『週刊誌の『東京スポーツ』(?!?)と名付けて愛読していた。(週刊誌とはそうであるべきで、『アサ芸』はまさに王道を行っているのだ……)

その『アサ芸』の5・5・5・

12GW合併特大号を、コンビニでパラパラ捲っていると、震災以外の驚きの記事が目飛び込んできた。——激白「仁義なき戦い」38年目の真実 第1回 千葉真一——と、題された都合三ページの記事。衝撃——。「あのカットシだつ」。内心、叫んでいた。担当者が新連載の一回目に、大友勝利を演じた千葉真一を選んだのは、日本映画史上に残る名台詞(?!?)を吐いたためであろうと推測しているのだが……。果して、出だしですぐ、そのことが書かれている。その部分を記事から引用する。

父であり、広島古参テキ屋である大友長次(加藤嘉)は、息子の勝利を厳しく諭す。勝利が広島最大の組織である村岡組の競輪場利権に目をつけたからだ。そしてここから、邦画史に残る「跳ねたセリフ」を一気にまくしたてる。

「何がバクチ打ちや、おお。村岡が持つとるホテルは何を売つちよるの。淫売じやないの。言うならアレらはオメコの汁でメシ食うちよるんど」

破天荒なセリフを吐くのは、誰あろう千葉真一(72) 現

在はJ・J・サニー千葉だ。

「言うならアレらはオメコの汁でメシ食うちよるんど!」とは、言いも言つたりであり、さらには、書きも書いたり、演らせも演らせたりである。千葉真一、笠原和夫、深作欣二の諸子、いや諸士と呼ぶべきであろうか、とにかく、彼ら、錚々たる日本映画のサムライ達、この台詞のインパクトたるや、まさに、日本映画史上で未曾有のことであり、永遠に伝説としても記録されるべきであるとさえ思えてくる。

私事に渡ったことで恐縮なのだが、この映画が公開されて十年以上後、私は然るエロ月刊誌に月号読切りの官能小説、いや、エロ小説と言ったほうがぴったりするでつちあげ話、つまり、その手の露骨なえげつないエロ話を書いていた。『仁義なき戦い 広島死闘篇』公開から十年以上は十分に経っていたが、私は一度として、——オメコ——とも——オマンコ——とも書かなかつたし、いや、正確には書けなかつたと言つた方がよい。それは同誌の作者達も同じらしく、その部分の表現をオ××コと一部を伏せ字にしたり、花園とか肉壺

(!!)とかクレバスとかの、容易に判る陳腐な暗喩を使つていた。

昔のことなのであまり詳しくは覚えていないのだが、編集部からはそのことに何らの注文も注意を受けた覚えはなく、作者達が自然とそのようにしていたのであろう。ちなみに、現在はダイレクトな表現は許されているらしく、本屋でそんな本類の並ぶ一角で調べてみたら、多くのエロ本に直接的な言葉を確認したし、さらには、「セル専門のアダルトビデオ・DVD」では、完全に解禁されているらしい。

私は全く詳しくはないのだが、第一、インターネットの世界ではアダルトサイトはある種の危険水域に達しており、それらは憂うる識者達からは、「性の道徳性」や「性の深遠性」や「性の聖性」などなどといった、根源的な問いが投げられている。話を元に戻す。あの恐るべしカットン——。もちろん、彼、大友勝利はこの一篇の主人公ではない。さらには、全シリーズの主人公である、菅原文太扮する広能昌三も脇にしか過ぎない。まさしく、この『広島死闘篇』の主人公は、「広島ヤクザの典型」(最後のナレーションより)とし

楽しめば、この一連の映画は大変に面白いのだ。

『アサ芸』の連載で初めて知ったことを記す。千葉の語ったところによると、例のファンキーハットを用意したのは千葉であったが、それにリボンを巻くことを提案したのは深作欣二であつたらしい。さらに、深作監督は役者千葉真一にこう尋ねた。「金玉を搔けるか?」。何しろ、大友勝利は梅毒持ちなのだから。千葉はこう答えた。「役者にこれできるかつて聞くとは失礼ですよ」。

千葉は深作の望みどおりに、股間を搔き捲くた。その記事によると監督は千葉の演技に大いに喜んだ。さて、肝心の私を驚愕せしめた「オメコの汁」の話だが、さすがの千葉も躊躇いがあつたのか、監督の深作にこう尋ねた。再び記事を引用する。

「この『オメコの汁で』っていうセリフ、言っていいんですか?」

「おうつ、遠慮するな!」
千葉の中で何かが吹っ切れた。大友と一体感が生まれた。それは伝説となつた以下のセリ

フに反映される。

「お、おやっさん。テキ屋言うてもバクチ打ち言うても、うまいもん食うてマブいスケ抱くために生まれてきとるじやないの。それもゼニがなきゃ出来やあせんので。ゼニに身を張って何悪いの!」
父・長次は最後通牒を叩きつける。

「村岡にケンカ売って勝てる思うとるんか!」
「やかましい! おどれら村岡ゆうたらチビリやがつて。あいつらの風下に立つてよ、センズリかいて仁義で首くくつとれい言うんか。おお?」
広島にヤクザは2つもいりやせんのだ

再び書く。脚本家、監督、役者やはり皆サムライ達である。希代の名台詞であり、また、最高の迷台詞でもある。『仁義なき戦い』シリーズに出演している役者達は、シリーズ全体の主人公である菅原文太はもちろん、それぞれの篇で様々な異様なキャラクターを演じ、多大の名台詞や迷台詞を吐き続けた脇役達、さらには、タイトルに名前も出てないし台詞も一言もな

く、画面に果して映っていたかないか定かには判らない名もなき役者達に至るまで、総てが見事なサムライ達であつた。その度肝を抜く台詞のいちいちを書き出した誘惑に駆られるのだが、そんなことをしたならば私に与えられた紙幅はたちまち尽きてしまうのでやめるが、それほど、笠原和夫の作つたそれらは凄まじく、また、それを自由に演らせた深作欣二の度外れた度量の広さ、さらに言わば、その意気に感じて端役の端役達はおろか、死人としてその場に死んでいくだけの役者達までもが、いかに目立つて見える死体になろうと演技するのである。

そのような諸々の中でも、千葉扮するカッソンの、「言うならアレはオメコの汁でメシ食うちやるんど!」は、全き白眉であつた。ところで、シリーズ最終作『仁義なき戦い 完結篇』では、この大友勝利役を穴戸錠が演じている。当時、千葉を主演にした空手映画が大ブレイクしていて、スケジュールの都合がつかなかったからだ。千葉は今でも、それを残念がつている。インタービューに、その無念さが滲み出ている。そうである。後で考えてみればなのだが、

役者にとつて、こんなおいしい役は滅多にないのだ。何しろ、あの梅毒持ちのカッソンが十数年後には脳梅(!!)にまでなり果て、痴呆と紙一重、いやいや、ほとんど痴呆としか言いようのない姿を晒して演じるのだ。

穴戸錠は昔の「エースの錠」張りに、少しのユーモアを加味して演じていたのだが……。果して、千葉が演じていたらとは前から思っていたのだが、『アサ芸』の千葉へのインタービューを読んだ後、ますますその思いを強くした。脳にまで梅毒が回ってしまった、千葉演じるあのカッソン——。是非にも見たかった。なお、私がこの連載で初めて知ったこともまだまだあつた。その最大ともいえることには大変驚いたのだが、読後、然もありなんといちいち納得し、「当時の私の映画眼」なるものも満更ではないな、と今さらに自慢(!?)したくなった。紙幅の限界が迫っているため、その仔細は省くが、当初、千葉真一の役は北大路欣也が演じた山中正治役となつていたのだが、克蘭クイン直前急遽、大友勝利役に差し替わつたというのだ。

それはそうであろう。『仁義な



『日本暗殺秘録』

き戦い 広島死闘篇』が作られる
 おおよそ四年前、その時公開され
 た「あの映画」を実際に見ていれ
 ば、東映の関係者ならずとも山中
 正治役は、千葉真一が絶対の適役
 と思っただろうし、「オメコの汁」
 の狂犬大友勝利役は、金輪際、無
 理だと思うであろう。あの映画が、
 凄まじい暴力性のうちにある種の
 純朴さを秘めた、山中正治役を呼
 んでいた。追い詰められた廃屋の
 空風呂の中、銃口を銜えて自決す
 るしかなかった山中正治。絶対に
 “南無妙法蓮華經の千葉真一”で
 なければならなかった——。

『アサ芸』の連載は六月末、第
 九回で終わった。加藤武、川地民夫
 と伊吹吾郎、穴戸錠、桜木健一と
 前田吟、松方弘樹、梶芽衣子と野
 川由美子、片桐竜次と志賀勝、最
 終が梅宮辰夫。

各回、役者達が語るくだわりには、
 実に読ませるものがある。与

えられた役の大小を問わず、それ
 ぞれの役者達は皆、『仁義なき戦
 い』シリーズには格別の思い入れ
 があるのだ。四十年近くが経った。
 当然、物故した役者達も多い。金
 子信雄、川谷拓三、山城新吾、小
 池朝雄、成田三樹夫、汐路章……。
 彼らからも、是非、一言聞いてみ
 たかったのだが……。それにして
 も、カッソンの「言うならアレら
 はオメコの汁でメシ食うちよるん
 ど!」は、頭抜けて凄い——。先
 を急がねば。『オメコの汁の千葉
 真一』から、“南無妙法蓮華經の
 千葉真一”へ。

その若者の暗殺すべき人物は、
 前大蔵大臣・井上準之助。未曾有
 の大恐慌は未だ収まっておらず、
 巷には大量の失業者が溢れ返り、
 労働争議や小作争議は日本全土に
 及び、完全に食うのに困った一家
 の親は年頃の娘があれば泣く泣く
 遊郭に売った。純粹無垢なその若
 者は、絶対に“巨悪”の首魁を殺
 らねばならないと決心していた。
 己の命など捨ててかかっていた。
 一人が一人の“元兇”を殺るのだ。
 「二人一殺」が彼らの合言葉であ
 る。指導者の和尚は事を急いで

いた。時間がないのだ。若者の名
 前を小沼正という。彼ら若者達の
 指導者は、日蓮宗の僧侶である
 井上日召。彼らの起したテロ事件
 を「血盟団事件」と呼ぶ。昭和七
 年であつた。その血盟団事件、な
 かんずく、小沼正その人を主人公
 にしたオムニバス映画が昭和四十
 四年に公開された。『日本暗殺秘
 録』——。監督は中島貞夫。脚本
 は中島貞夫と笠原和夫。紛れもな
 く、傑作である——。

私はビデオやDVDをあれこれ
 コレクションする趣味はないので、
 先に記した『仁義なき戦い』もこ
 の『日本暗殺秘録』も手元になか
 った。もつとも十年近く前、『シ
 ネマ気球』の原稿のためにこの暗
 殺ものの映画を見たくなり、編集
 長に手配してもらったのだが、そ
 の時は発売されていなかった由。

今は出ているとのことなので、二
 作品とも手配してもらった。今回
 四十年振りに見たのだが、再び血
 が熱くなるのを禁じ得なかった。

例の『アサ芸』の連載第一回目
 で千葉真一を取りあげた記事を読
 んだ後、無性に『日本暗殺秘録』
 を見たくなっていた。「桜田門外
 の変」から「二・二六事件」まで、
 日本近代史上に勃発した九つの暗

殺事件をオムニバスで描く。とり
 わけ、小沼正に扮する千葉真一が
 主人公となる「血盟団事件」は、
 映画の大半を占めていて最も中心
 的に描かれている。映画の始めか
 ら終りまでテロリズム・テロリス
 トを描いているのだから、全篇に
 渡って白刃は不気味な煌きを見せ、
 爆弾弾は大音響とともに容赦なく
 爆発し、拳銃の一弾は無慈悲に骨
 肉を穿つ。全篇、これ血潮、血潮、
 血潮である。いくら切った張った
 の任侠映画の東映とはいえ、よく
 もこんな企画が通ったものと思う
 のだが、それは偏に——時代——
 そのものにあつたのである。公開
 時は昭和四十四年。「70年安保」
 直前、左右の対決は元より、左翼
 の内部でも、内ゲバは常として日
 常の中にあつたのだ。

いつもは陳腐な惹句をつける東
 映宣伝部も、この時ばかりは違っ
 ていてなかなか読ませる。宣伝
 ポスターより、その惹句を書き出
 しておく。

君よ 君たち 若桜たち
 な ぜ、ふり乱す獅子の立て髪!
 日本の若者の歴史を血で描い
 て 敢えて問う—— 暗殺は、
 是か!? 否か!?

何とも挑発的ではないか。私はこの映画で描かれた、二人の若きテロリストが好きだ。

一人はもちろん、千葉演じる小沼正であるが、もう一人は高橋長英演じる古田大二郎。アナキスト・古田大二郎は、大正十二年に

起った、いわゆる、「ギロチン社事件」で、翌十三年、絞首刑になった若者である。事件の詳細を記す余裕はなくなってしまったが、彼はアナキストではあるのだが、真のロマンチストであり、高橋長英は透明感溢れる清潔さで、彼の全人格を描き切った。印象深い見事な演技であった。特に、彼の獄中手記『死の懺悔』の一節が流され、絞首刑に処されるため、刑場へと向かう場面は……。

いよいよ余裕がない。急げ——。小沼正を演じた千葉真一も、至純なる青年が至純なるが故に、テロへと一気につつまる過程を、時代相との絡みの中でこれまた見事に演じ切っていた。殊に、茨城県大洗の海岸で一心にお題目を唱えるシーンは実にフアナディクであり、テロルへと走る狂信的な若者の内面をリアルなまでに演じていた。

「南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経……」と一心

に唱えるうち、次第次第に高まりて忘我の境に到るところなどは圧巻である。アナキストと右翼。思想的、あるいは哲学的な「立ち位置」は、それこそ天と地ほどに違ふのだが、その至純さと純朴さとは全き同じであらう。

『日本暗殺秘録』で小沼を演じた千葉を見ていれば、誰だって、『仁義なき戦い 広島死闘篇』の「静かなる殺人者山中正治役」には、千葉を当てたいと思うであらう。「当時の私の映画眼」も、そう読んだ。千葉自身もそう思っていて、事実、その線で決まり、千葉の頭には山中の台詞まで入っていたらしい。が、それを否定したのは誰あるう、最初はその線に賛同した監督の深作欣二であった。何と深作は、よりによって、「オメコの汁」のカットンを演じさせたのである——。誰もが考えなかったことを、深作欣二は遣らかしたのだ。結果は、大成功——。かくして、『仁義なき戦い 広島死闘篇』は、日本映画史上に「伝説」として残った。千葉真一が叫んだ、「オメコの汁でメシ食うちよろんどつ」とともに——。

——完——

筆者の近況・意見等(順不同)

山下雄平 今年には特に節電で、クラーを極力控えているせいでも事務所仕事も汗だくです。最近観た映画では、「愛の勝利を ムッソリーニを愛した女」「ブラック・スワン」「戦火のナージャ」「神々と男たち」「ザ・ファイター」「キラー・インサイド・ミー」「トゥルー・グリット」「英国王のスピーチ」が良かった。異色なところで「ビー・デビル」「悪魔を見た」が記憶に残っています。映画はいいですね。

◇

鶴田聖二 核の恐怖と言えば、思い出すのは「ゴジラ」第一作です。もともと小一の時、視聴覚教室に暗幕を張って観たのが「キングコング対ゴジラ」でした。それが怪獣映画を観たはじめです。その後ゴジラは宇宙でシェーしたり息子が出来たりで、怪獣映画というのはそういうノリのものだとばかり思っていました。中一の時テレビで観た「ゴジラ」第一作は本当に衝撃でした。東京を火の海にして暴れ回るゴジラが、僕には核の恐怖が実体化した姿に見えました。それまではゴジラの必殺の武器く

らいにしか思っていなかったあの背ビレを光らせて吐くやつが、浴びた人間を原爆症にってしまう恐ろしい放射能なのだと実感させられたのも、この映画です。

◇

中田好美 声優という職業を体験するために、「こえ部」というサイトで開催された一言声優オーディションに参加しました。最初は恥ずかしかったのですが、何回も声を録り直すうちに楽しくなり、気がついたらパソコンの前で3時間以上もアテレコをしていました。アテレコは本当に難しかったです。感情を声で表現するのがこれほど難しいとは、声優さんの偉大さを痛感しました。百聞は一見にしかずでした。

◇

里中智子 3月11日の地震ですが、仕事から帰宅してニュースを見るとまでまったく知らなくて、ほんとうにビックリしました。福島県に知り合いが居るのですが、連絡はとれないし、どうしているのか不安で仕方なかったのですが、数日後にやっと連絡がとれてほっとしました。しかし、安心したのも束の間で福島県は今現在も目に見えない放射性物質の恐怖にさらされ

ています。不安な日々が一日も早く払拭されることを願わずにはいられません。

◇

堀江広子 原発で酷い目にあって
いる福島県の人々の苦悩を思うと、
自分の平穏な日常を書いていいの
かどうか迷いました。猫と暮し始
めて四年目、素人ガーデニングは
三年目、ジョギングも三年目、姑
が入院して夫との二人暮らしが二
年目に入っています。毎日が暑さ
との闘いです。

◇

N雄(門馬徳行) 10年に及ぶ
『ハリー・ポッター』が遂に完結。
現代にも通じる結末に関する良否
はともかく、ポッターはついに魔
法の杖を捨てる。いや捨てなけれ
ばならない。杖は恐るべきパワー
の根源。使い方によっては全てを
滅ぼす。ヴォルデモートとポッター
は両刃の剣。故に、ポッターは
もう終わりにしよう、彼に眩し
い崖の上から落下していくのだ。

◇

N子(岩館範子) 今、『トワイラ
イト』シリーズにはまっています。
1本目『初恋』の出会いが、映画
館でなかったことが悔やまれます。
ヴァンパイアと少女の恋、まあ、

少女マンガの世界です。『ニューム
ーン』『エクリプス』は繰り返し観
ても飽きません。先日、風邪をこ
じらせて咳がずっと止まりません
でした。この季節、みなさんも体
調には十分ご注意ください

◇

小泉敦 メジャーリーグが開幕し
てからというもの、衛星放送でこ
れを毎日のように観戦している。
日本人選手のいる球団の放送が多
いが、これを朝8時頃から2試合
続けて観ると終わるのが午後2時
頃。夜はまたプロ野球を観るから
気がつくとい日10時間くらい野球
を観ていることもある。

◇

今市文明 11日おきの病院通いも
5年半が経過。あちこち体にガタ
がきていますが、まだまだ気力は
十分。いい映画にめぐり会いたい

◇

藤井陽子 映画を観るのも好きで
すが、イラストを描くのが大好き。
只今、地元でライフワークとも言
うべきイラスト展を開催中です。

◇

美羽 11年と3カ月あまり、
ひよんなことから、とある海外支
援NPO団体と関わり、ボランティア
活動をしておりしました。タダ

で絵を描いたり、広報を作ったり、
会議に出たり、イベントを手伝っ
たり：こういう団体はどこも人手
不足ですから、最後は複式簿記の
会計までやりました。しかしまあ、
会計に関わったことで、この団体
の欺瞞性に気がついたのは幸か不
幸か。色々疑問を持っていた同士
4名とともに、6月に全力で脱出
したのは良い思い出です。そして
そこで、共に「ヒカルの墓」ファ
ンの同年の女性と知り合え、一緒
に墓を打てるようになったのは、
神様のご褒美かと喜んでおります。
彼女は初段で私は始めたばかり、
15級くらいのヘボですが(涙)。文
科系のアタマには本當に向いてな
くて辛いのですが、せめていつか
10級位になって、早く19路で打ち
たいなあ、と思いつつ今日もIG
OWINでコンピューター相手に
9路を打っています。

◇

鈴木輝夫 この男には——理念
——がない。否、第一、それらを語
るべき手段としての——言葉——
すら持ち得ていない。「第二の戦
後」はこのような男を首相とする
ところから始まった。私ごとき無
為無学な者にも、容易ならざる大
事態と急傾斜していく日本国が、

鮮烈なる映像として仄見える。あ
たかも、極めて出来の悪い新作版
『日本沈没』を見るかのごとく。
憂国の至情溢るる若者達に、あえ
て、『仁義なき戦い』シリーズ最大
にして最高のワル、金子信雄扮す
る山守組・組長山守義雄の名台詞
を贈る。「ぶちやばたれーっ」

◇

久保嘉之 今回は体調を崩してし
まい締切に間に合いません。書き
たいことはいくつかあります。症
状が改善され次第、一つひとつ仕
上げていきます。

◇

吉田修 未曾有の大災害になり、
3・11以降及ばずながらボランテ
ィアに奔走しております。おかげ
様で郷里、盛岡は被災を免れ、家
族、縁戚全員無事でした。そんな
事情で今回は執筆辞退させていた
だきます。

◇

関田孝正 幼馴染の会に参加しま
した。50年ぶりの再会もありまし
た。幼い頃の顔がインプットされ
ているので、その面影を必死に探
そうとしました。光陰矢のごとし
と昔の人はうまいことを言ったと、
昔の友達と会うたびに思います。

時の経過が冒険の旅を永遠の物語へと誘う

ラスト、「人生は短い」というヒロイン、マティ・ロスのモノローグにはジーンときた。この映画のよさはこのラストシーンに集約されている。巻頭からラストにいたるまでの物語も十分に面白いのだが、ラストの描写があることによって、ぐっとその物語のよさが印象づけられるのである。

西部劇。十四歳の少女マティ・ロスは父親を殺され、連邦保安官ルースター・コグバーン(ジェフ・ブリッジス)を雇って、テキサスレンジャー・ラビーフ(マット・デイモン)とともに殺人者トム・チェイニー(ジョシュ・ブローリン)を追う旅に出る――。

無骨な男たちとの命がけの旅。過酷な自然の中を旅する。雪が舞う日もある。野宿にも耐えなければならぬ。無論、男たちは少女を連れて行くことは危険だし、足手まといになるだけだから、連れていきたくない。だが、少女はどうしてもついていくといつてき

ない。なんとか置いてけぼり食わそうとする。が、少女はついてくる。ここら辺が面白い。

トウルー・グリット



ジェフ・ブリッジスとヘイリー・スタインフェルド

そうはしない。旅をともにする。冒険の旅だ。少女は音をあげない。

三カ月の捜索行――。男たちは広い西部の中で犯罪者を探しきれずに、旅に疲れている。だが、少女はめげない。父親殺しを追う心を失わない。少女は旅を続けるエネルギーだ。むくつきき男たちをも参らせる「強い心」をもっている。少女抜きでは、この旅を完遂することはできなかった。足手まといなんかではなかった。少女がいたから、犯罪者を仕留めることができた。当り前のことなのだが、男たちがいなければ、少女一人では目的を達成することは、また無理だった。むくつきき男たちといたいけな少女の旅は、一緒だったからこそ正解だったのだ。

冒険の旅は終わった。――二十五年が経つ。十四歳の少女は三十九歳になった。この二十五年後の描写がいい。冒険の旅の三カ月は二十五年の歳月からみればわずかな時間だが、この二十五年の時の経過が三カ月の出来事を見るものにも強く心に刻みつけることになる。二十五年の歳月が少女と男たちの短い旅を永遠の物語へと誘う。二十五年後のラストシーンは、だから十分に大切な描写であるのだ。

マティ・ロスが丘の向こうへ消えていくラストは、冒険の旅と同じくらいに意味をもって迫ってくる。とにかく、マティ・ロス役のヘイリー・スタインフェルドがいい。利発そうで勝気なキャラクターが魅力的だ。監督はジョエル&イーサン・コーエン。

原作(チャールズ・ポーティス、漆原敦子・訳「ハヤカワ文庫」)にほぼ忠実に映画化されている。もちろん、原作も面白いし、味わい深い小説だ。

この映画は「勇気ある追跡」(監督「ヘンリー・ハサウェイ、一九六九」)のリメイクでもある。コグバーン役のジョン・ウエインは、アカデミー賞主演男優賞を受賞した。マティ・ロスはキム・ダービーが演じた。エルマー・バーンステインの音楽が広大な荒野を感じさせる西部劇らしい西部劇に仕上がっている。ただ、ラストは原作と違っていた。ジョン・ウエインの陽気なキャラクターを生かしたラストだった。「トウルー・グリット」のほうが深い余韻があり、作品の出来としてはこちらに軍配をあげる。

(関田孝正)